バージョンアップガイド
（Ver.4.1→Ver.5）

ONE Ver.4.1 から Ver.5 へのバージョンアップ内容を
ご紹介します。

※解説内容がオプションプログラムの説明である場合があります。
　ご了承ください。

目次　バージョンアップガイド ONE（Ver.4.1→Ver.5）

1 メイン・共通　P.1

1－ 1　Unicodeに対応 ____ 1
1－ 2　地理院地図Vectorに対応 ____ 2
1－ 3　重ねるハザードマップに対応 ____ 3
1－ 4　水害ハザードマップ機能を追加 ____ 4
1－ 5　フロートボタンに［表示設定］を追加 ____ 5
1－ 6　表示設定の機能追加 ____ 6
1－ 7　位置情報付き写真の一括削除に対応 ____ 8
1－ 8　座標地番シェープファイル読込みに対応 ____ 9

2 座標管理　P.10

2－ 1　同一点判定条件を拡張 ____ 10
2－ 2　座標の属性移動コマンドを追加 ____ 11

3 地番管理　P.12

3－ 1　検索条件を拡張 ____ 12
3－ 2　地目コード、長狭物設定を拡張 ____ 13
3－ 3　所有者/共有者のデータ構造を見直し ____ 14
3－ 4　地番の属性移動を改良 ____ 18

4 外部ファイル読込み　P.19

4－ 1　中抜き処理の拡張 ____ 19

5 計算アプリケーション　P.20

5- 1　複数選択可能な場合を表記 ____ 20

6 3次元計測　P.21

6- 1　SfMソフトとの連携強化 ____ 21
6- 2　点密度検証精度管理表に対応 ____ 22
6- 3　グラウンドデータ/グリッドデータ作成作業
精度管理表を追加 ____ 23
6- 4　飛行ルートの出力機能を改良 ____ 24
6- 5　「ホバリング」設定の表示制御を改良 ____ 25
6- 6　コマンド名の変更 ____ 25

7 電子野帳取込　P.26

7- 1　生データ取込みを改良 ____ 26
7- 2　器械点一覧リストの表示幅を変更可能に ____ 27
7- 3　水平角の較差チェックに対応 ____ 27
7- 4　全体形状確認を改良 ____ 28
7- 5　出力する器械点の絞り込みが可能に ____ 29

8 基準点測量　P.30

8- 1　生データ取込みを改良 ____ 30
8- 2　記簿データ確認で[反方向にジャンプ]機能を追加 ____ 31
8- 3　点検路線の入力手順を軽減 ____ 32
8- 4　点検路線の編集機能を強化 ____ 33
8- 5　閉合差表示を拡張 ____ 35
8- 6　複数単路線の厳密網計算処理を改善 ____ 35
8- 7　点検測量のみの手簿計算書を作成可能に ____ 36
8- 8　計算書に取消線を表示 ____ 36

9 水準測量　P.37

9- 1　計算書に取消線を表示 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 37

10 トラバース計算　P.38

10- 1　器械点標高が自動計算できない場合の
操作を改善 ＿＿ 38
10- 2　野帳の観測線を選択して観測データへ
変換可能に ＿＿ 39

11 CAD　P.40

11- 1　「選択対象」のボタン表示をカスタマイズ可能に＿＿ 40
11- 2　「マークでマスクする/しない」切り替えボタンを追加　40
11- 3　プロパティの「はい」/「いいえ」など
設定の表現を改良＿＿ 41
11- 4　複写した要素に対しての配置フラグを変更 ＿＿＿ 42
11- 5　リボンメニューに[一括訂正]を追加＿＿＿＿＿ 42
11- 6　「間隔」設定の保持に対応＿＿＿＿＿＿＿＿ 42
11- 7　複雑な形状でのグラデーション描画に対応＿＿＿ 43
11- 8　「面要素」グループの新規作成に対応 ＿＿＿＿ 43
11- 9　「現場共通」/「作業データごと」の説明を追加 ＿＿ 43
11- 10　スタイルや数値条件の印刷を改良 ＿＿＿＿＿ 44
11- 11　表示：全般-マスク表示設定の保持を改良 ＿＿＿ 44
11- 12　地理院タイル、ストリートビューの
アイコン表示設定を追加 ＿＿ 45
11- 13　表示：ラスタ-ラスタ透過の設定に説明を追加＿＿ 46
11- 14　出荷時設定ファイルにレイヤを追加 ＿＿＿＿＿ 46
11- 15　「累計」押下後もとのダイアログへ戻れるよう改良　47
11- 16　単一選択時、カラー：「ペンの色」「レイヤの色」が
選択可能に＿ 47
11- 17　割付方法にセンタリングを追加＿＿＿＿＿＿ 48

12 地積測定　P.49

12- 1　地目別集計表の長狭物集計方法を改良 _____ 49

13 路線測量　P.50

13- 1　J-LandXML Ver.1.3への対応 _____ 50
13- 2　FIELD-TERRACE路線データの書き込みに対応 _ 51

14 縦横断測量　P.52

14- 1　[前断面]/[次断面]切り替え時の動作を改良 ___ 52
14- 2　CAD数値化で入力済みの現況データ/
計画データを保持 ___ 53

15 プロットマーク登録　P.54

15- 1　カラーのプロットマーク登録が可能に _____ 54

1 メイン・共通

メイン・共通の新機能をご紹介します。

1 - 1 Unicode に対応

これまで表現できなかった文字が正しく表示されるようになりました。

地名、人名の文字が表現できない（「?」に変換される）ということがなくなり、TREND REXやMercury-LAVISとの連携時も文字化けが解消されます。

例）地番管理

【従来】

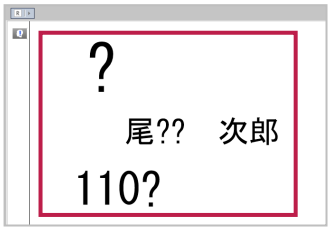
地番名	構成点	求積属性	字・番地	地目（現況）	所有者
100	5	求積地番1	中区?東町	宅地	??田 太郎

【Ver.5】

地番名	構成点	求積属性	字・番地	地目（現況）	所有者
100	5	求積地番1	中区樶東町	3:宅地	吉田 太郎

例）CAD

【従来】



【Ver.5】

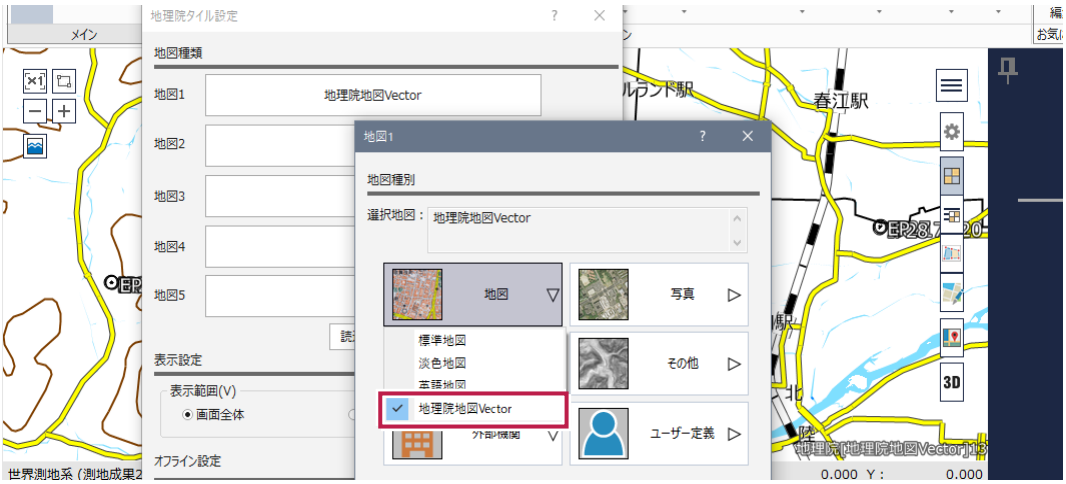
<制限事項>

・「FCフォント」、「FCフォントTypeS」には対応しておりません。（Unicode文字は「?」で表示されます。）

・CADの［ファイル］－［外部ファイル書込み］－［Google Earth］において、
「文字形式：ベクトル」で書込みした場合は、Unicode文字が保持できません。（「?」で表示されます。）
文字を出力する場合は「文字形式：アウトライン」で書込みしてください。

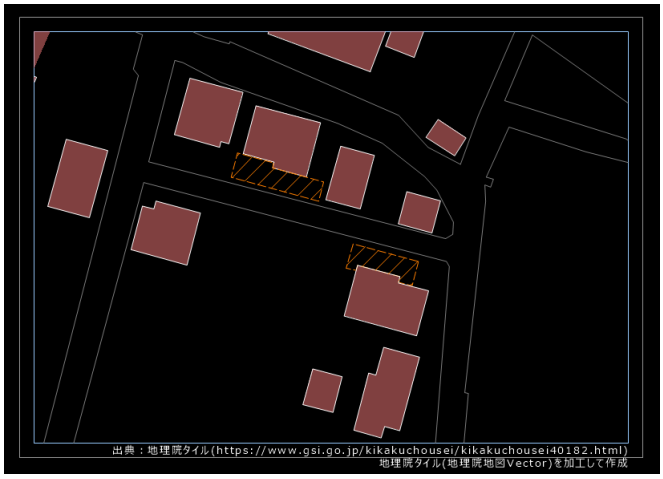
1-2 地理院地図 Vector に対応

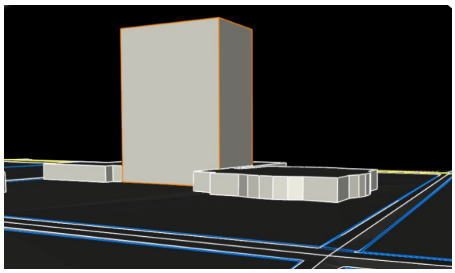
［地理院タイル設定］の地図種類に「地理院地図Vector」を追加しました。

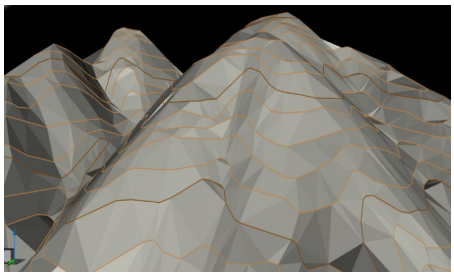


・［地理院地図Vector表示設定］より、要素ごとに表示/非表示の切り替え、表示色、線幅の変更など柔軟な表現が可能となります。

・［簡易CAD配置］より、CAD要素として編集、活用できます。また、高さを与えることで、建物の3次元表現や等高線の作成が可能です。



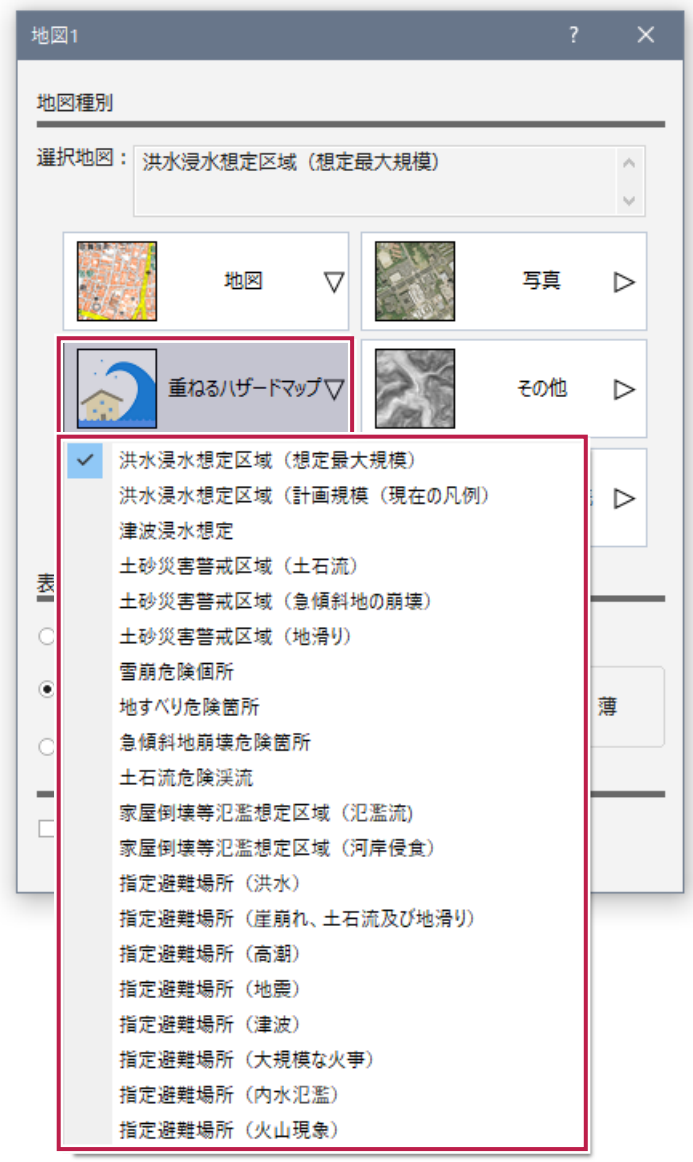




1 - 3 重ねるハザードマップに対応

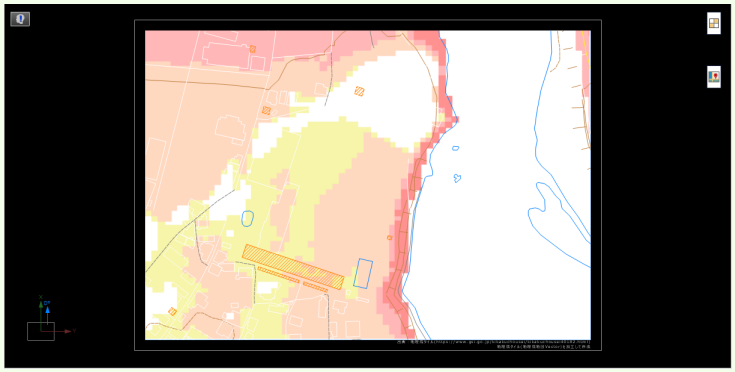
「洪水浸水想定区域」や「津波浸水想定」、「土砂災害警戒区域」、「指定避難場所」などのハザードマップを地理院地図に重ねて表示することが可能になりました。

［地理院タイル設定］の「地図種類」で選択可能です。



メモ

［簡易 CAD 配置］を使用して、CAD で活用することもできます。

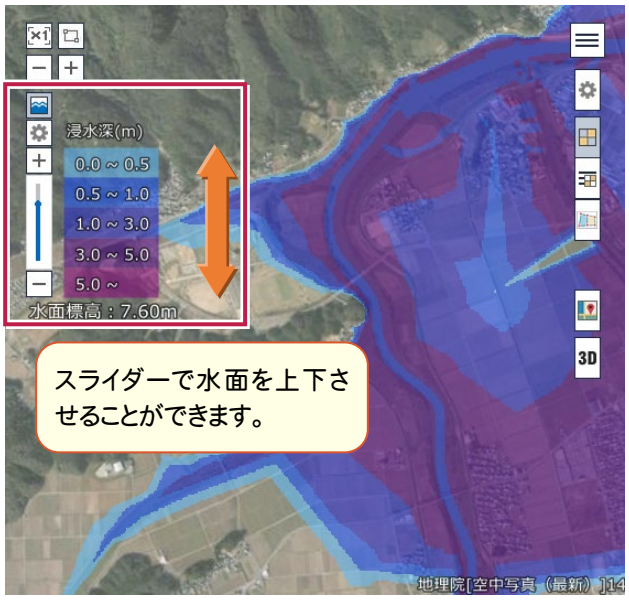


1-4 水害ハザードマップ機能を追加

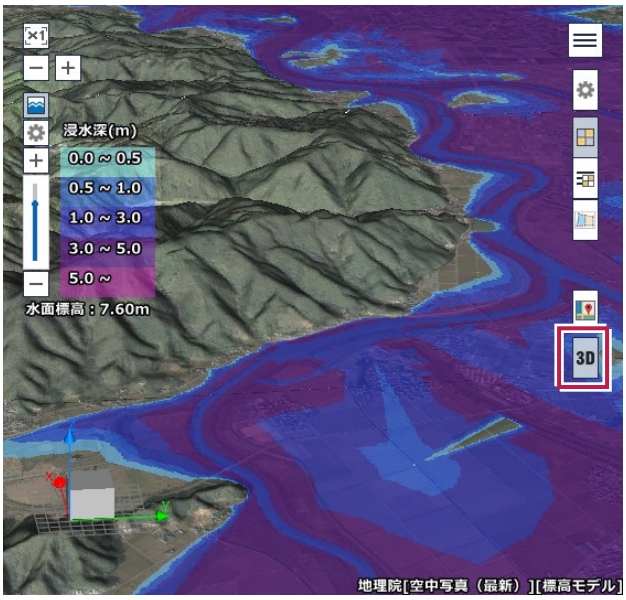
現場プロットにおいて、浸水面を任意の標高に動かし、浸水状況のヒートマップを地理院地図に重ねて表示することが可能になりました。（簡易浸水シミュレーション）

［水害ハザードマップ表示］ で表示できます。（地理院タイル背景表示がオンの場合にアイコンが表示されます。）

【2D表示】

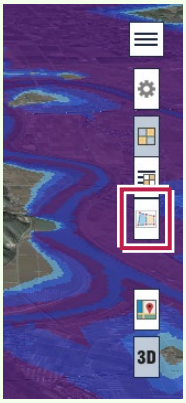


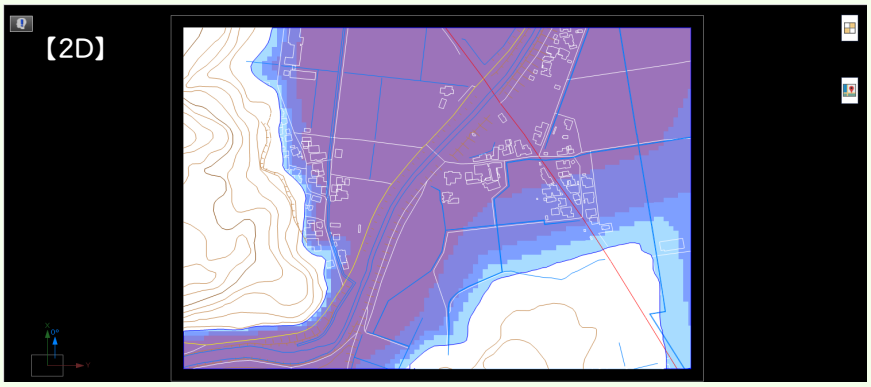
【3D表示】



メモ

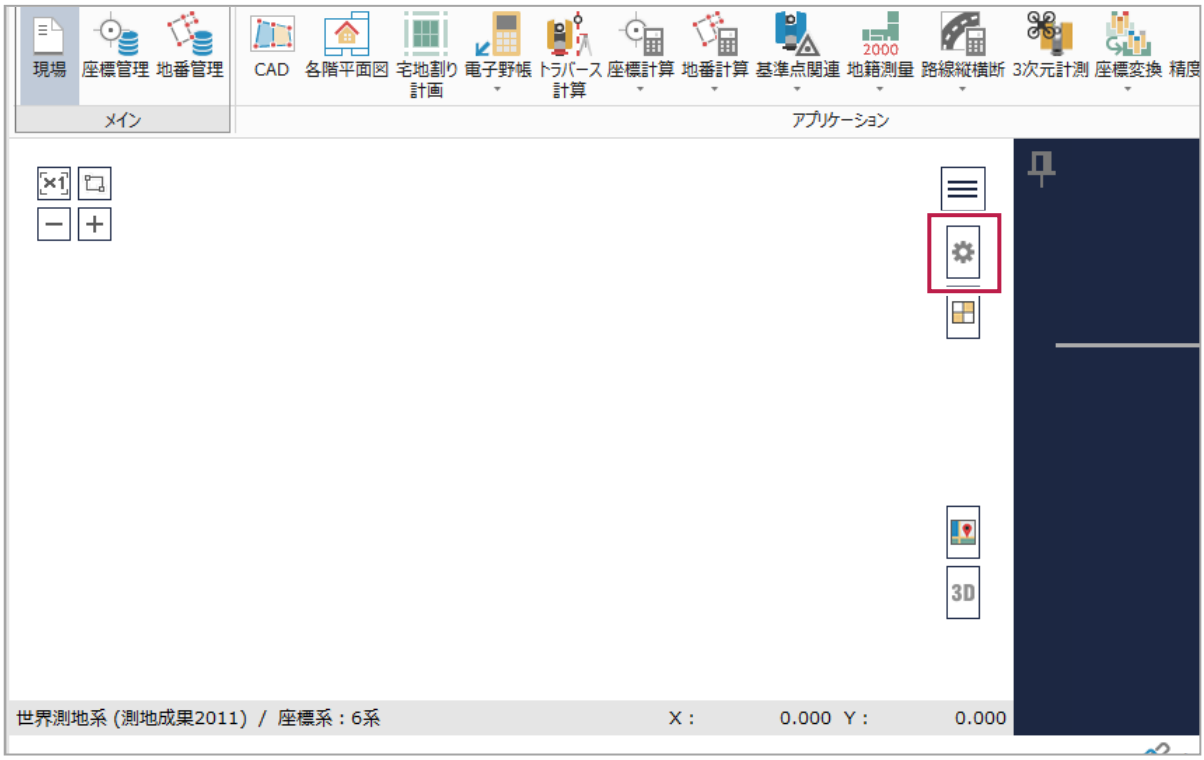
［簡易 CAD 配置］を使用して、CAD で活用することもできます。





1 - 5 フロートボタンに[表示設定]を追加

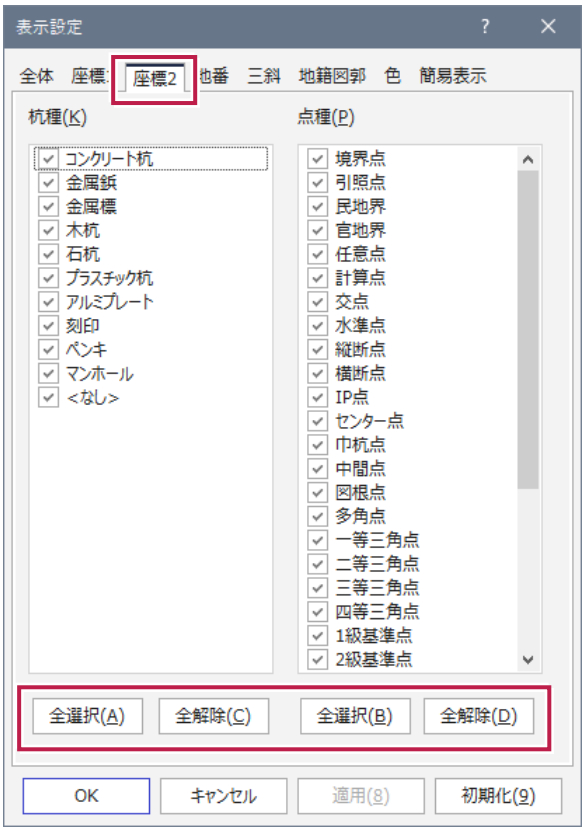
現場プロット画面上に[表示設定]ボタンを配置しました。



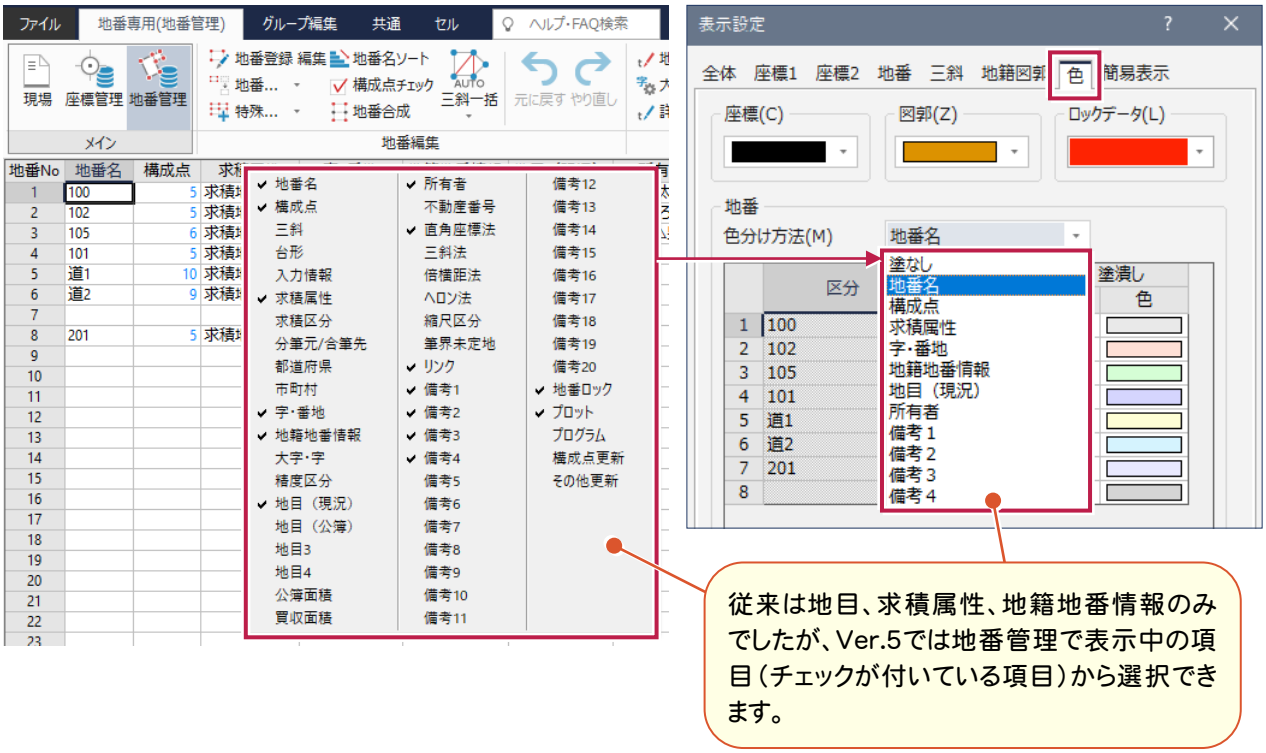
1-6 表示設定の機能追加

［表示設定］に以下の機能を追加しました。

・［座標2］タブ内に、［全選択］、［全解除］を追加しました。

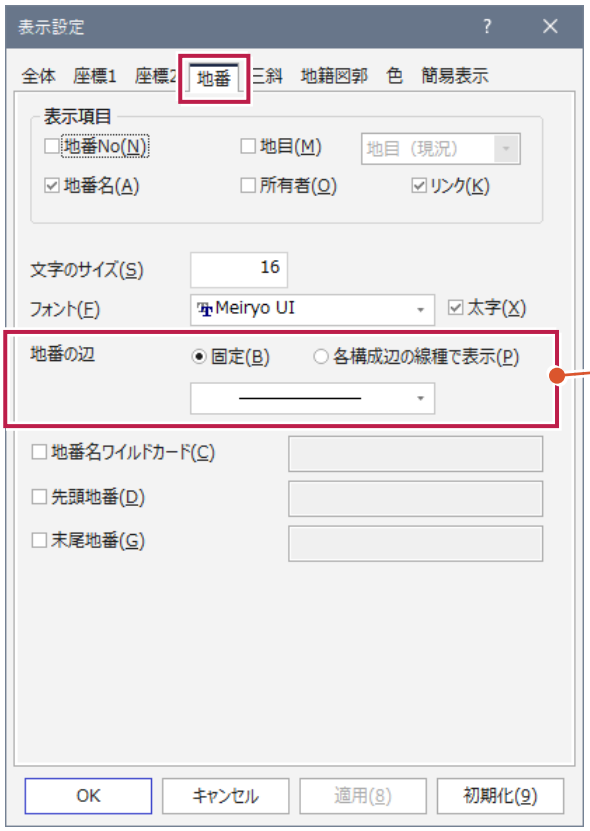


・［色］タブにて、地番管理で表示中の項目を利用した地番の色分けが可能になりました。



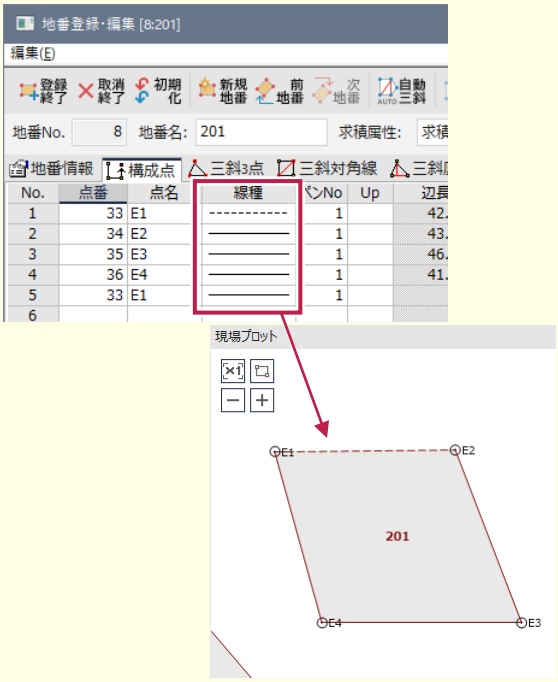
従来は地目、求積属性、地籍地番情報のみでしたが、Ver.5では地番管理で表示中の項目（チェックが付いている項目）から選択できます。

・[地番]タブ内にて、現場プロットで表示する地番辺の線種を[固定]または[各構成辺の線種で表示する]で切り替え可能になりました。



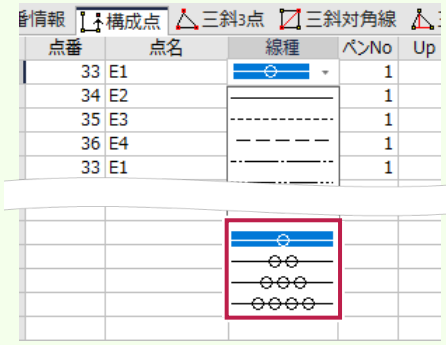
[固定]の場合は線種を選択します。

[各構成辺の線種で表示]の場合は、地番管理の構成点で設定した線種で表示します。



メモ

「○」が付くタイプの線種は実線で表示されます。

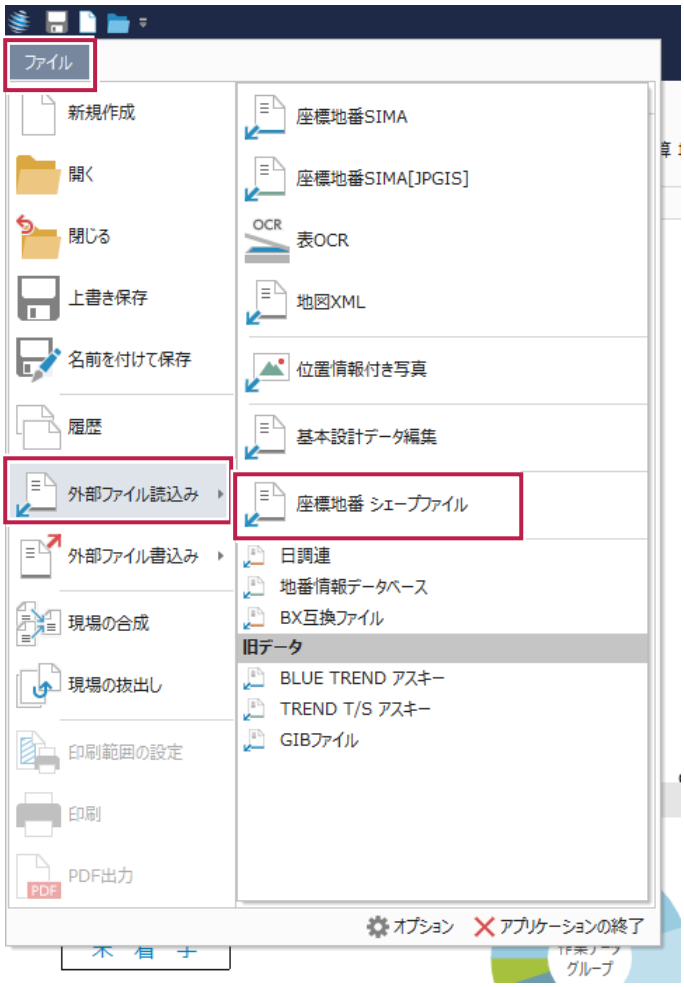


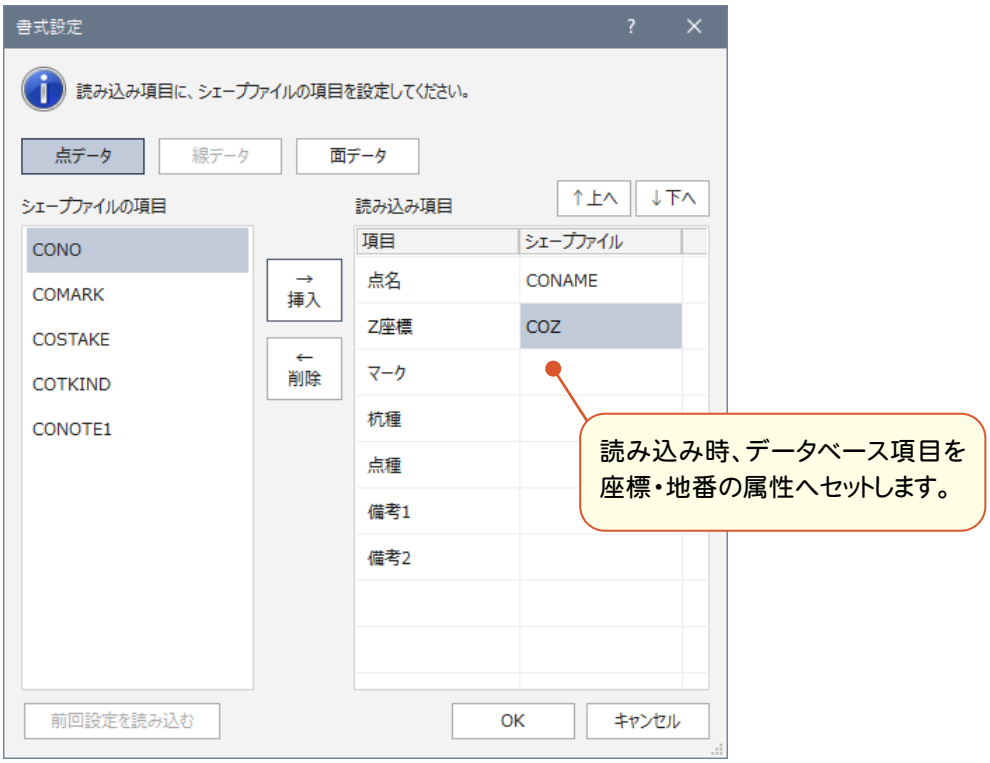
1-7 位置情報付き写真の一括削除に対応

現場プロットにおいて、位置情報付き写真の[一括削除]を追加しました。

1-8 座標地番シェープファイル読込みに対応

シェープファイルを読み込んで座標・地番に変換する機能を追加しました。





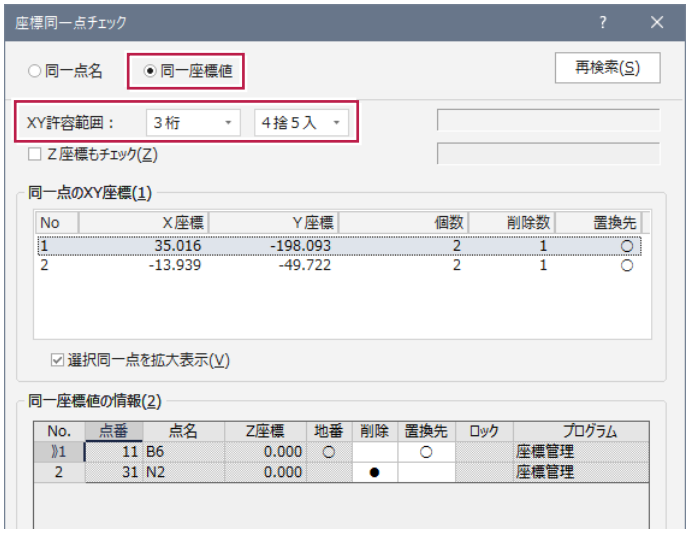
2 座標管理

座標管理の新機能をご紹介します。

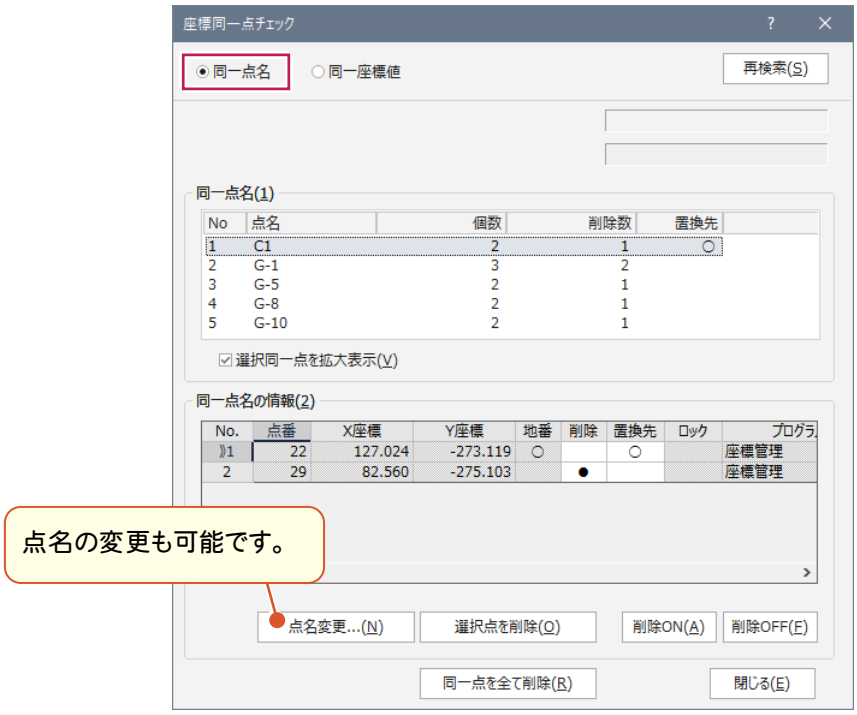
2-1 同一点判定条件を拡張

［同一点チェック］において、以下の機能を追加しました。

・同一座標値の許容範囲の制限を設定できるようになりました。



・点名でのチェックが可能になりました。



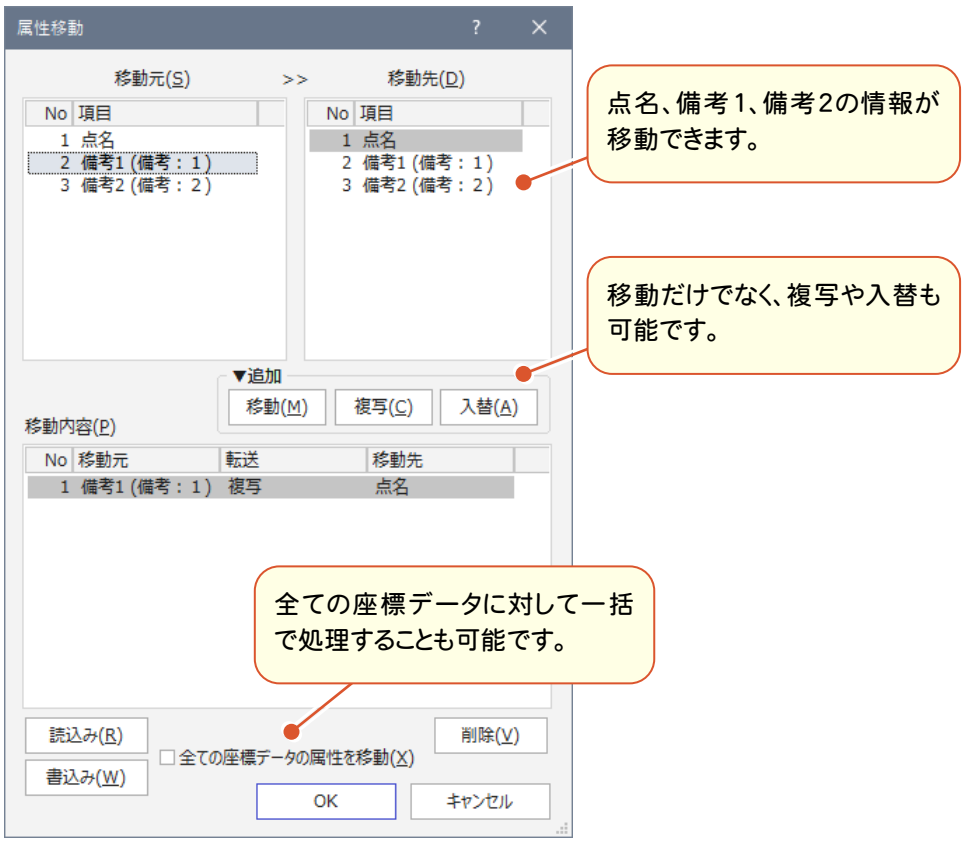
2-2 座標の属性移動コマンドを追加

座標の属性（点名、備考）を移動するコマンドを追加しました。

点番	点名	X座標	Y座標	Z座標	マーク	備考：1
1	1	245.115	-270.122	0.000	⊙1.0-1-1	A1
2	2	271.128	-80.038	0.000	⊙1.0-1-1	A2
3	3	149.070	24.011	0.000	⊙1.0-1-1	A3
4	4	33.016	-48.023	0.000	⊙1.0-1-1	A4
5	5	35.016	-276.130	0.000	⊙1.0-1-1	A5
6	6	167.079	-196.092	0.000	⊙1.0-1-1	B1
7	7	171.081	-116.055	0.000	⊙1.0-1-1	B2
8	8	127.060	-198.093	0.000	⊙1.0-1-1	B3

点番	点名	X座標	Y座標	Z座標	マーク	備考：1
1	A1	245.115	-270.122	0.000	⊙1.0-1-1	A1
2	A2	271.128	-80.038	0.000	⊙1.0-1-1	A2
3	A3	149.070	24.011	0.000	⊙1.0-1-1	A3
4	A4	33.016	-48.023	0.000	⊙1.0-1-1	A4
5	A5	35.016	-276.130	0.000	⊙1.0-1-1	A5
6	B1	167.079	-196.092	0.000	⊙1.0-1-1	B1
7	B2	171.081	-116.055	0.000	⊙1.0-1-1	B2
8	B3	127.060	-198.093	0.000	⊙1.0-1-1	B3

［座標専用（座標管理）］タブー［座標編集］グループー［座標情報移動］でおこなうことができます。



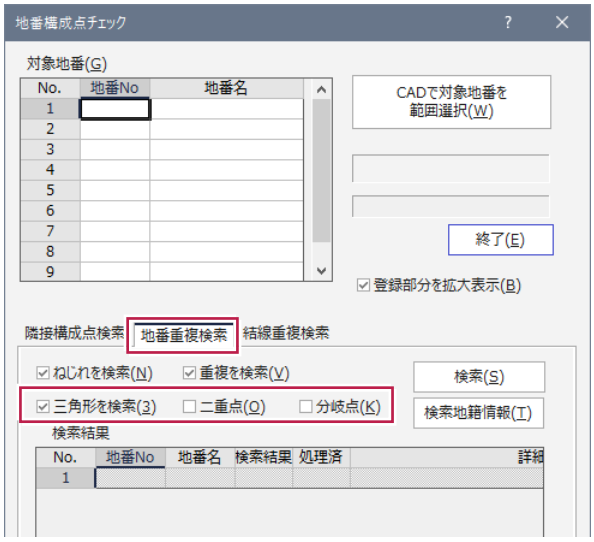
3 地番管理

地番管理の新機能をご紹介します。

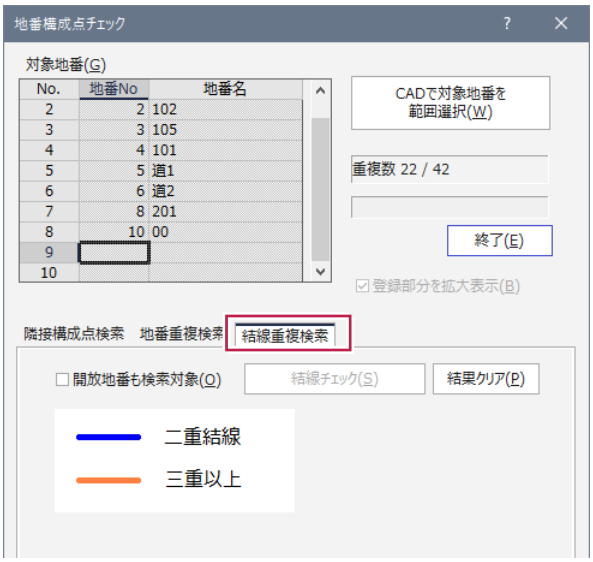
3 - 1 検索条件を拡張

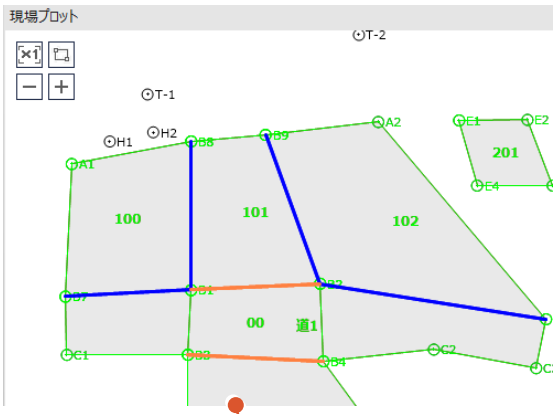
構成点チェックの検索条件で、以下の機能を追加しました。

・3点で構成された地番や、二重点、分岐点による地番重複検索が可能になりました。



・結線重複検索が可能になりました。

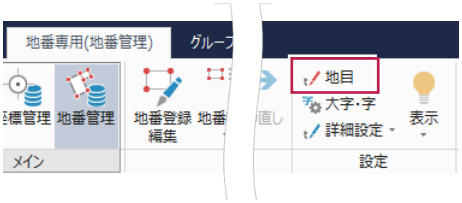


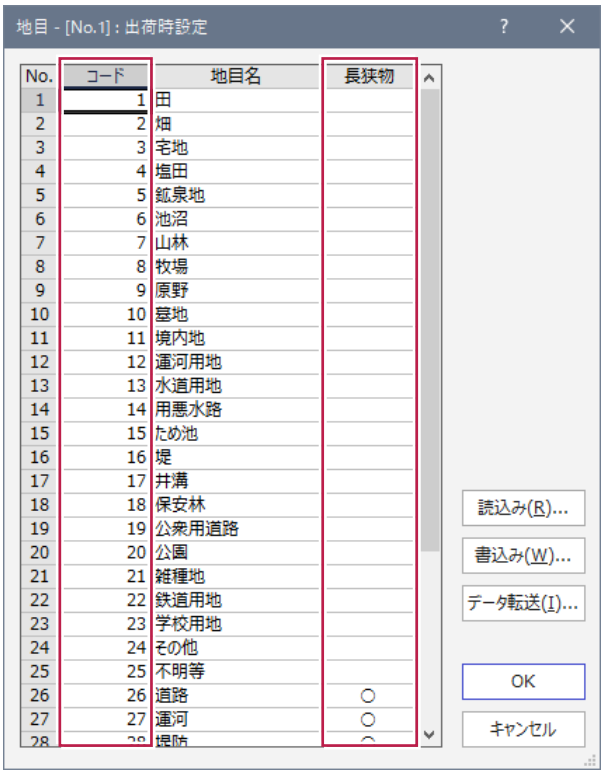


現場プロットで、二重結線は青色、三重以上の結線はオレンジ色で表示されます。

3-2 地目コード、長狭物設定を拡張

地目コードの自由付加（0～250）、長狭物設定が可能となりました。





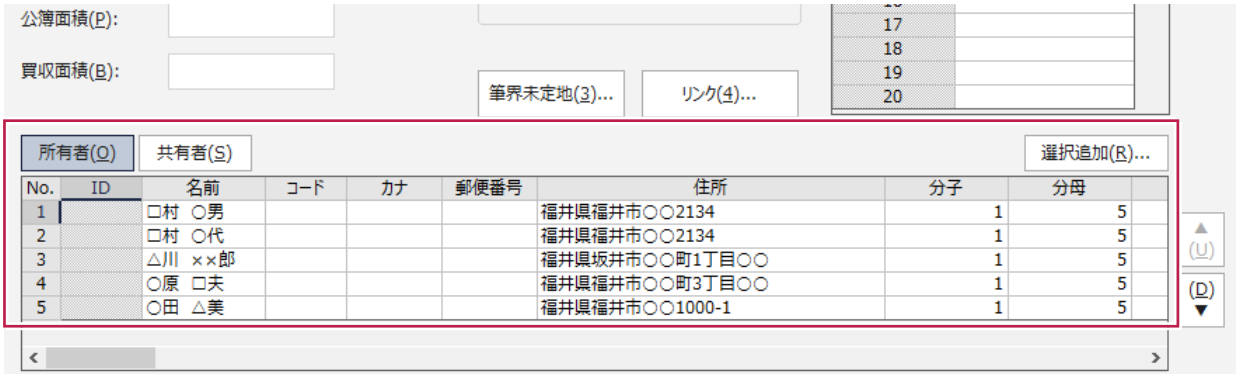
No.	コード	地目名	長狭物
1	1	田	
2	2	畑	
3	3	宅地	
4	4	塩田	
5	5	鉱泉地	
6	6	池沼	
7	7	山林	
8	8	牧場	
9	9	原野	
10	10	墓地	
11	11	境内地	
12	12	運河用地	
13	13	水道用地	
14	14	用悪水路	
15	15	ため池	
16	16	堤	
17	17	井溝	
18	18	保安林	
19	19	公衆用道路	
20	20	公園	
21	21	雑種地	
22	22	鉄道用地	
23	23	学校用地	
24	24	その他	
25	25	不明等	
26	26	道路	○
27	27	運河	○
28	28	堤防	○

3-3 所有者/共有者のデータ構造を見直し

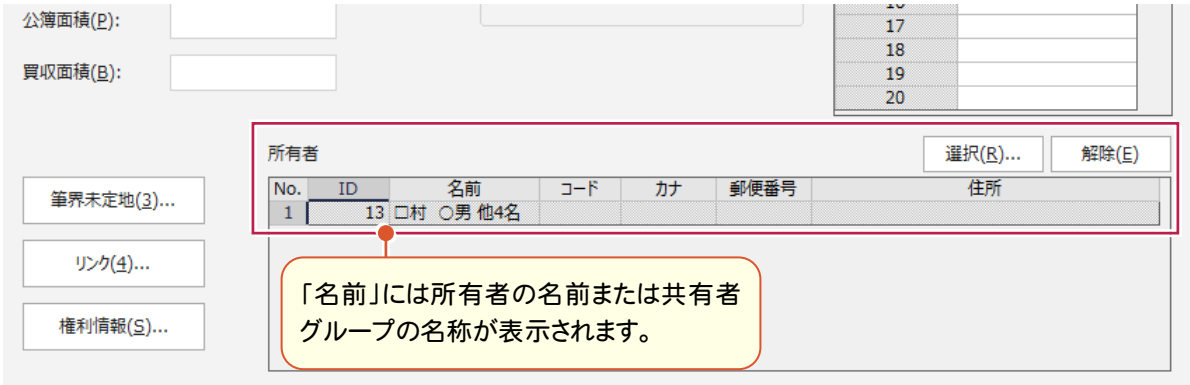
所有者、共有者のデータ構造を見直し、以下のように変更になりました。

・1地番に対して所有者は1名のみとし、所有者が複数名いる場合は「共有者グループ」として登録します。

【従来】
「所有者」に最大5名まで登録可能でした。(例：[地番登録・編集]の[地番情報]タブでの表示)

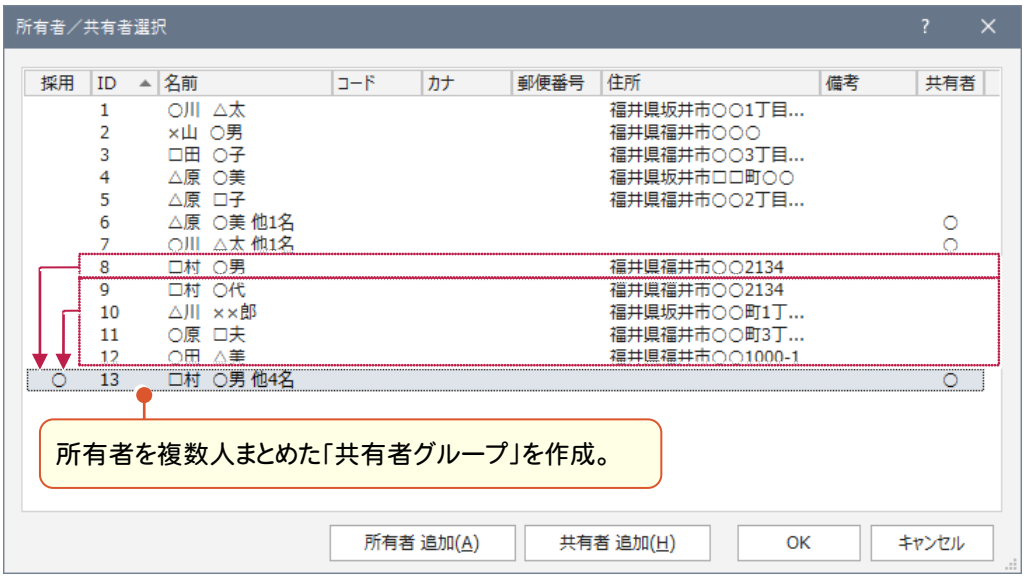


【Ver.5】
「所有者」に登録できるのは1名。所有者が複数名の場合は、登録された所有者リストから複数人選択して、「共有者グループ」として登録します。(例：[地番登録・編集]の[地番情報]タブでの表示)

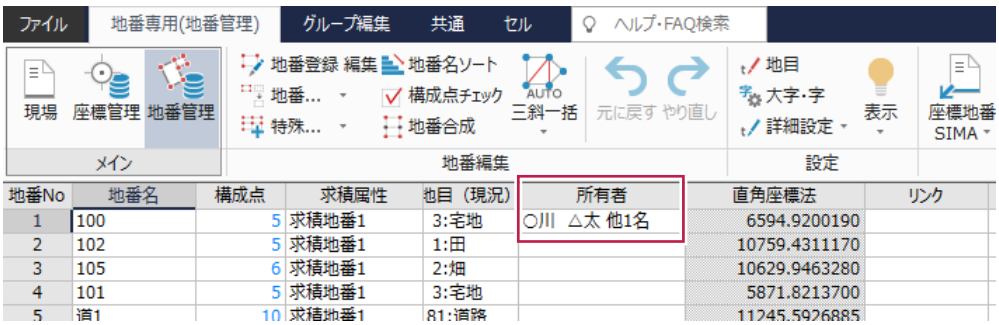


所有者や共有者グループの登録は[選択]ボタンからおこなうことができます。

所有者が1名の場合は、所有者を選択します。リストにない場合は、[所有者追加]で追加します。
所有者が複数名の場合は、[共有者追加]で所有者リストから複数人選択して「共有者グループ」を作成します。



・地番管理の「所有者」セルに所有者、共有者グループが表示されます。
（従来の「共有者」セルは廃止されました。）



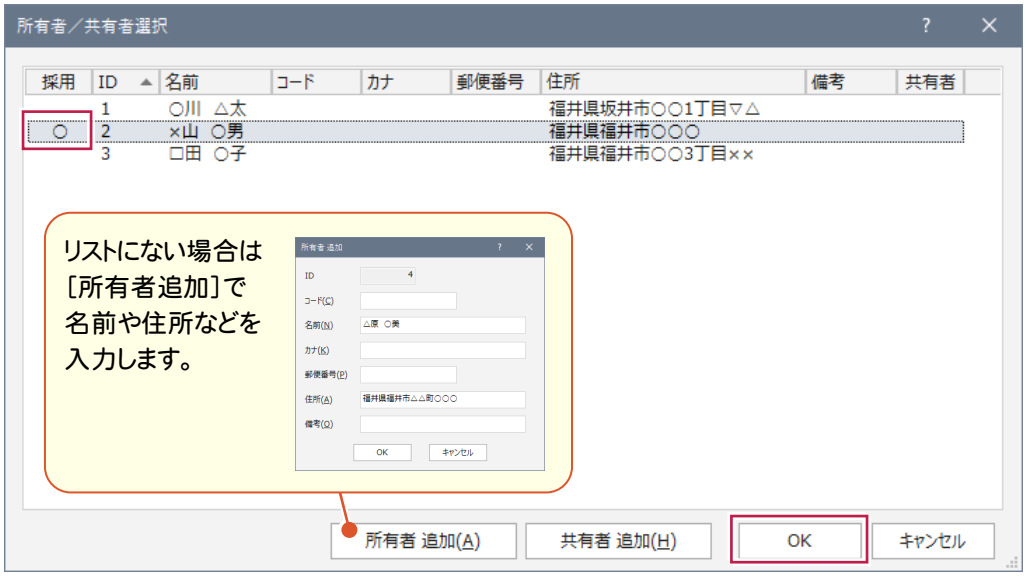
・所有者や共有者グループなどの情報編集は［所有者/共有者編集］でのみおこなえます。

また、データ構造の変更に伴い所有者・共有者の入力手順が変更になったため、操作例を解説します。

＜所有者が1名の場合の入力＞

1. 所有者セルをダブルクリックします。

2. 所有者を選択して［OK］をクリックします。



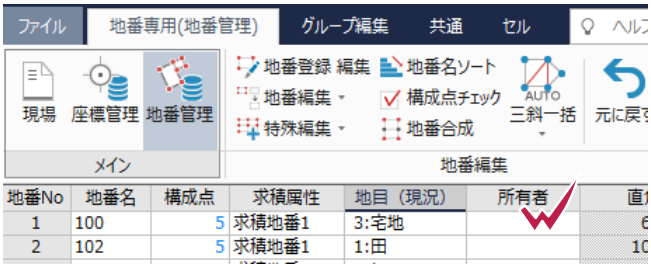
（次ページに続きます）

3. 所有者が入力されます。

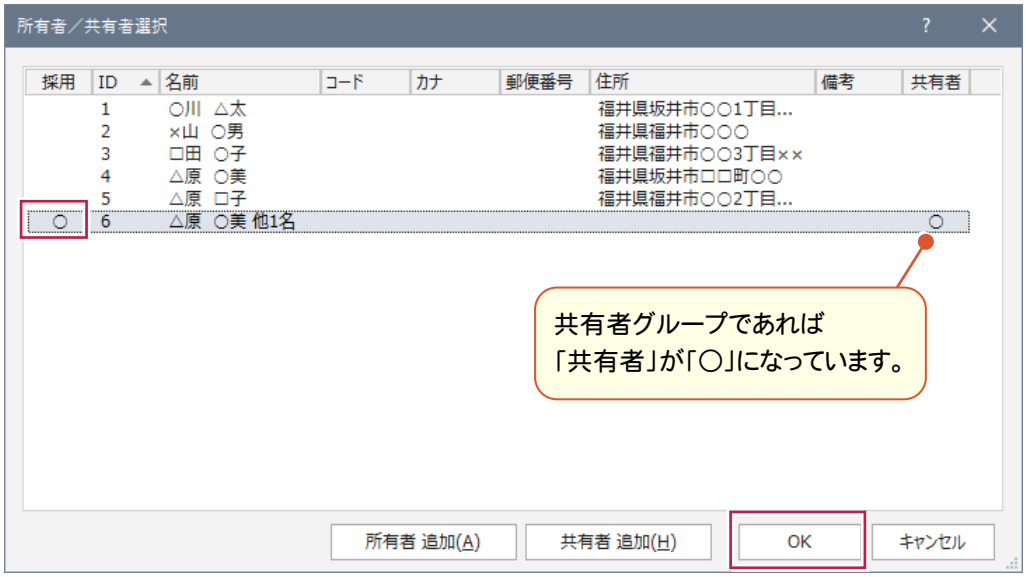
地番No	地番名	構成点	求積属性	地目（現況）	所有者
1	100	5	求積地番1	3:宅地	×山 ○男
2	102	5	求積地番1	1:田	
3	105	6	求積地番1	2:畑	
4	101	5	求積地番1	3:宅地	
5	道1	10	求積地番1	81:道路	

＜所有者が複数名の場合の入力＞

1. 所有者セルをダブルクリックします。

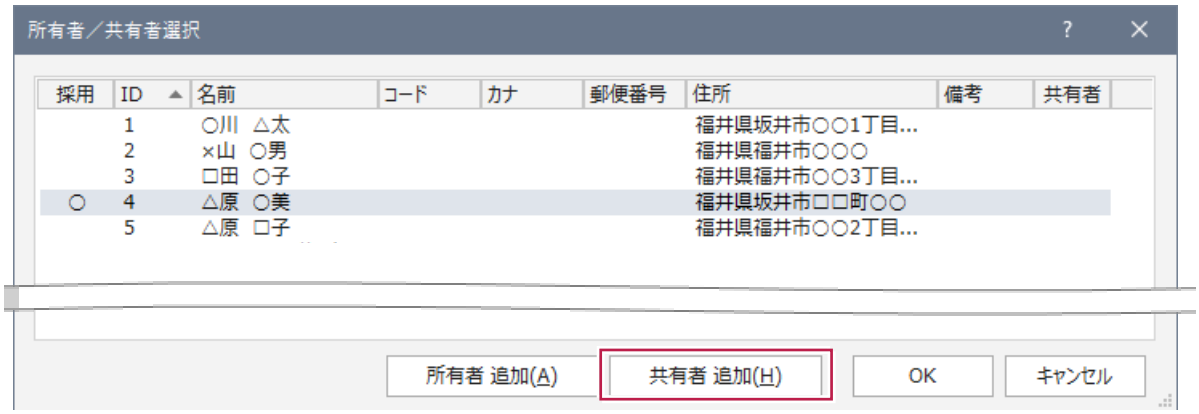


2. 共有者グループを選択して[OK]をクリックします。（※ここで所有者を複数人選択することはできません。）



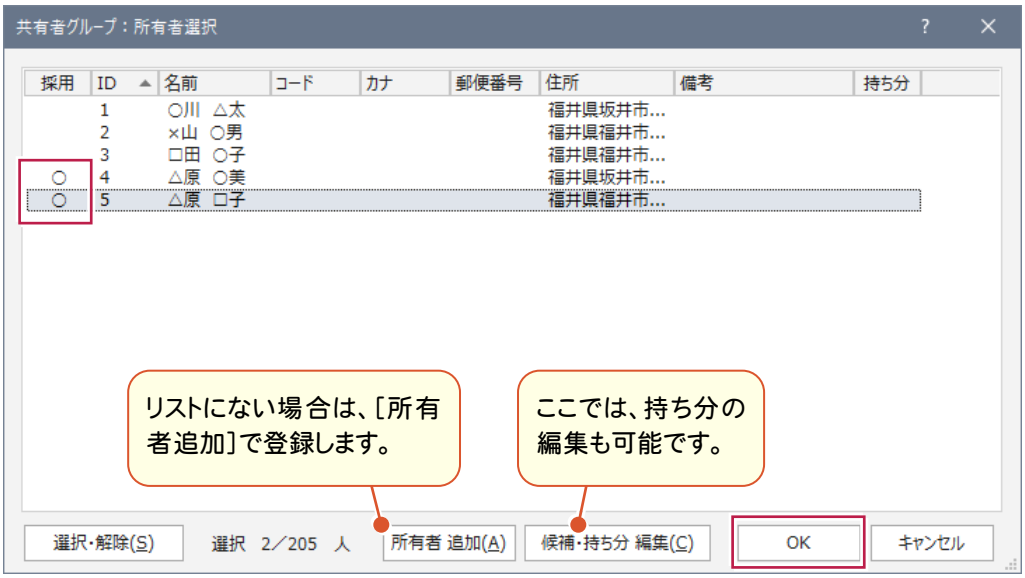
■共有者グループがない場合の操作

①[共有者追加]をクリックします。

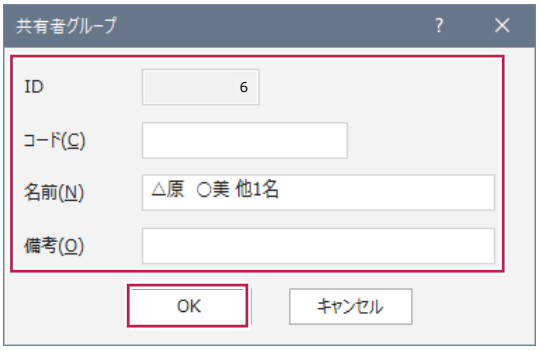


（次ページに続きます）

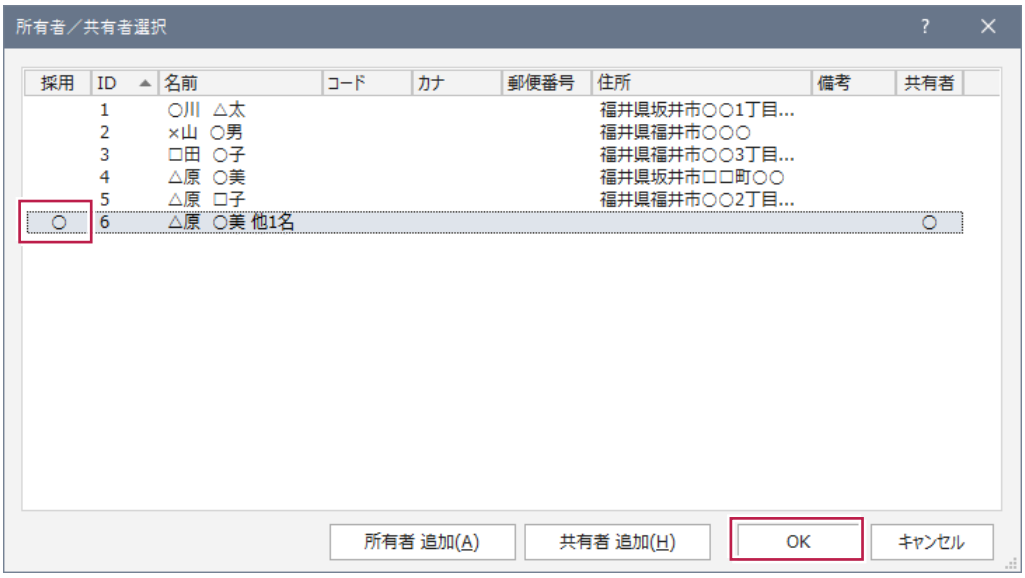
②該当の所有者をダブルクリックして「採用」を「○」の状態にし、[OK]をクリックします。



③追加する共有者グループの名前などを確認して[OK]をクリックします。



④追加した共有者グループが選択されていることを確認して、[OK]をクリックします。



3. 複数人の所有者（共有者グループ）が入力されます。

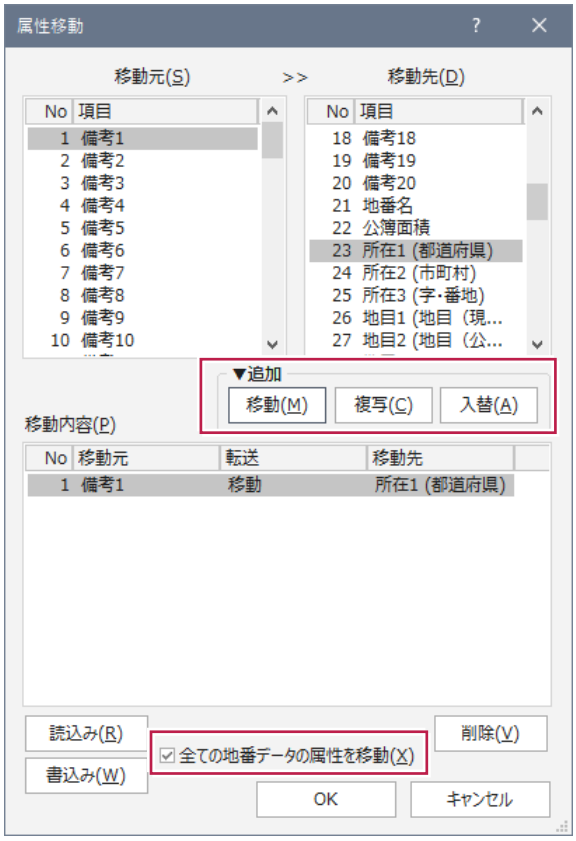
地番No	地番名	構成点	求積属性	地目（現況）	所有者
1	100	5	求積地番1	3:宅地	△原 ○美 他1名
2	102	5	求積地番1	1:田	
3	105	6	求積地番1	2:畑	
4	101	5	求積地番1	3:宅地	
5	道1	10	求積地番1	81:道路	
6	道2	9	求積地番1	81:道路	

3-4 地番の属性移動を改良

［地番情報移動］で、以下の変更をおこないました。

・処理の種類［移動］、［複写］、［入替］が個別に設定可能となりました。

・［全ての地番データの属性を移動］チェックボックスが追加され、全ての地番データに対して実行するか、選択している地番データのみを対象とするかが選択可能になりました。



・対象となる属性が増えました。

地番名	大字	字	公募面積	所在 1～3	地目 1～4	備考 1～20	所有者

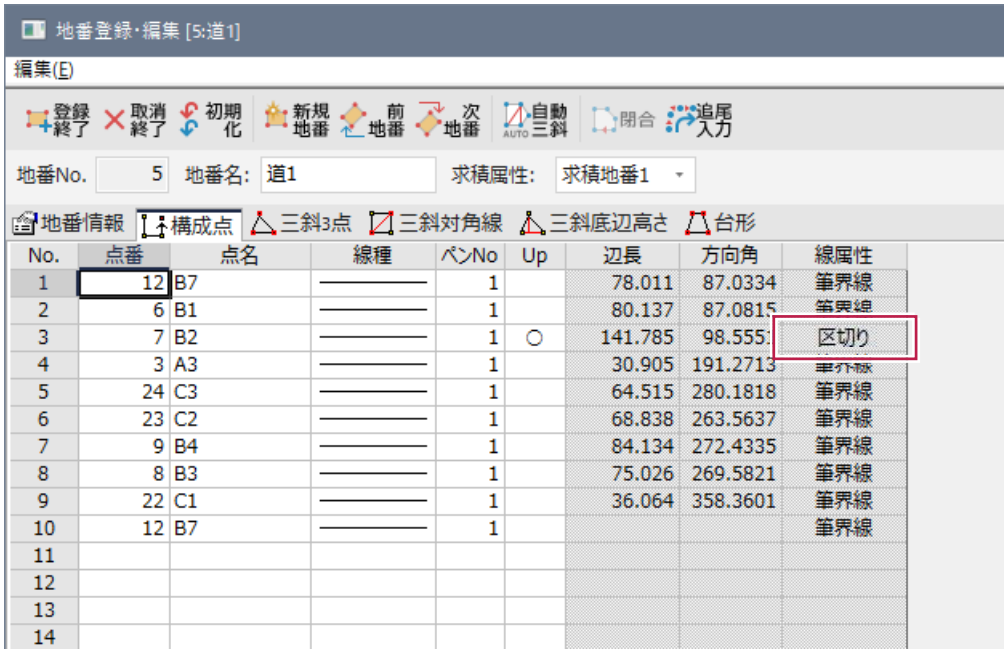
4 外部ファイル読込み

外部ファイル読込みの新機能をご紹介します。

4 - 1 中抜き処理の拡張

地図XMLで、中抜きスリット部分の区切り線化に対応しました。

中抜きのスリット部分は[線属性]:「区切り」に設定されます。

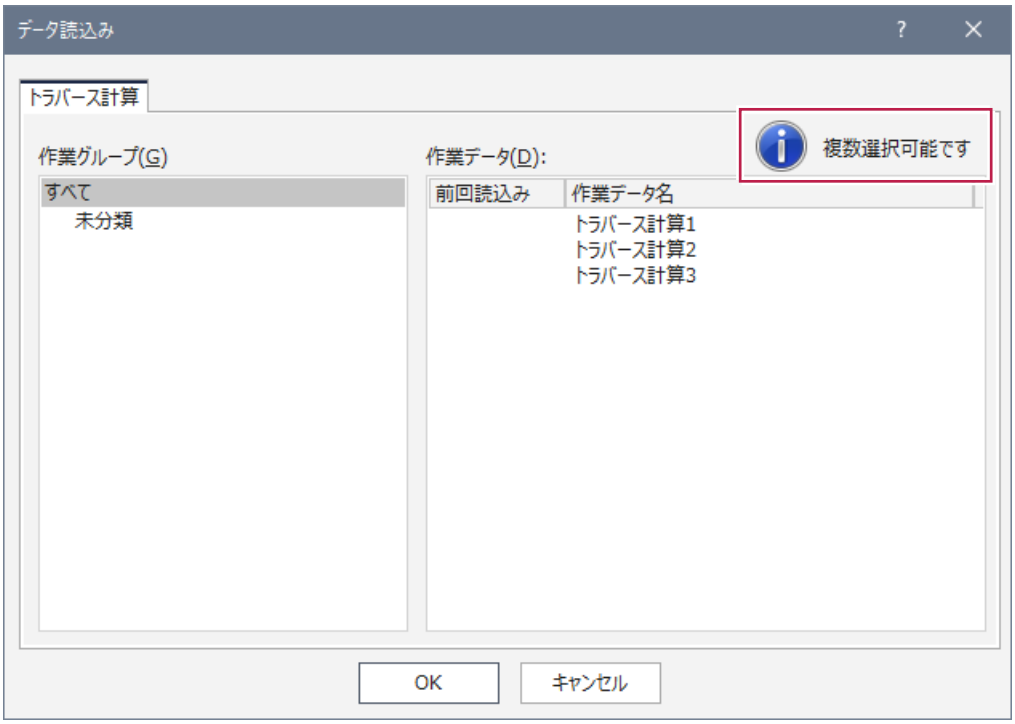


5 計算アプリケーション

計算アプリケーションの新機能をご紹介します。

5 - 1 複数選択可能な場合を表記

データ読込みダイアログにおいて、複数のデータを一括読込み可能な場合に、「複数選択可能」という注釈を表示するようにしました。



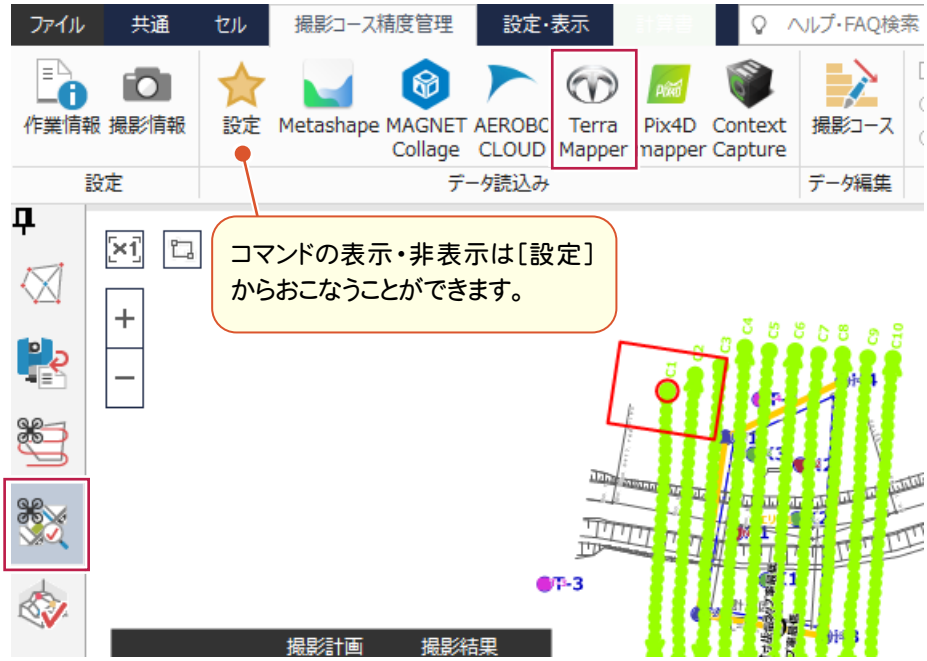
6 3 次元計測

3次元計測の新機能をご紹介します。

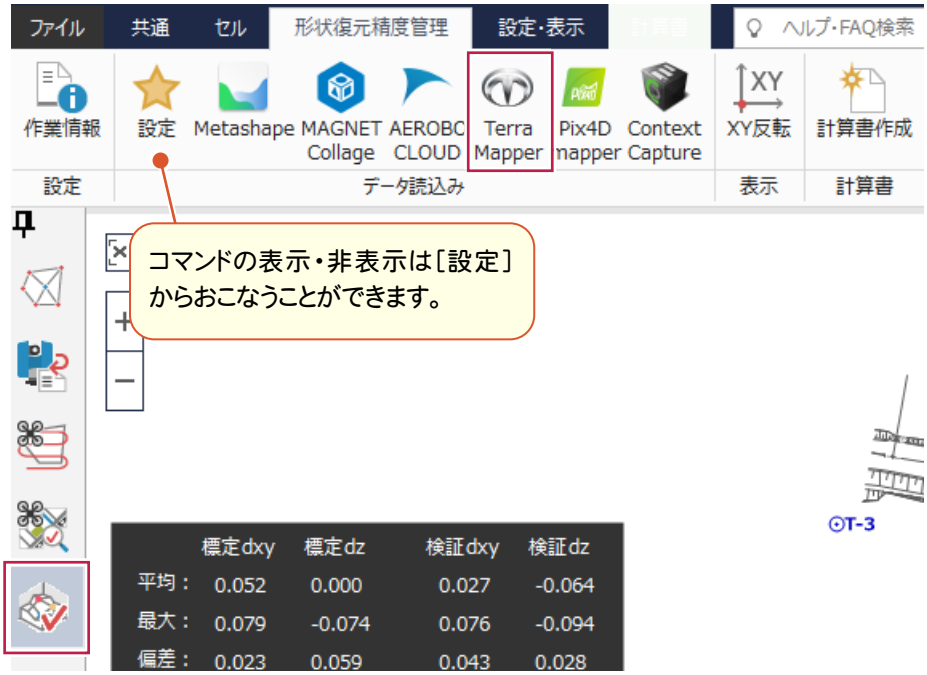
6 - 1 SfM ソフトとの連携強化

UAVモードにおいて、Terra Drone社の「Terra Mapper」から出力された解析結果ファイルを読み込めるようにしました。

・[撮影コース精度管理]ステージ

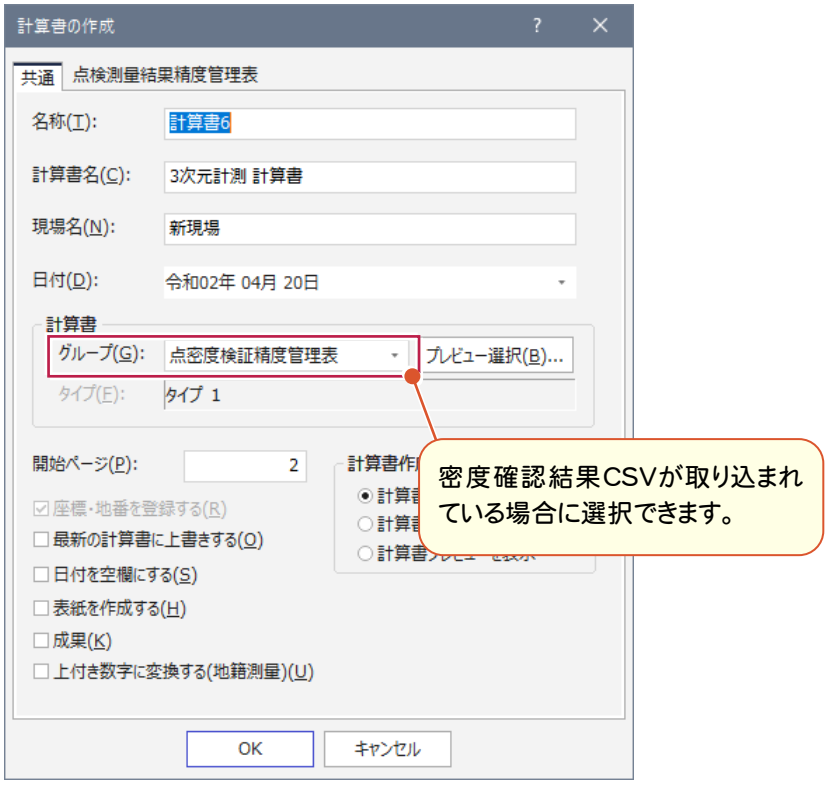


・[形状復元精度管理]ステージ

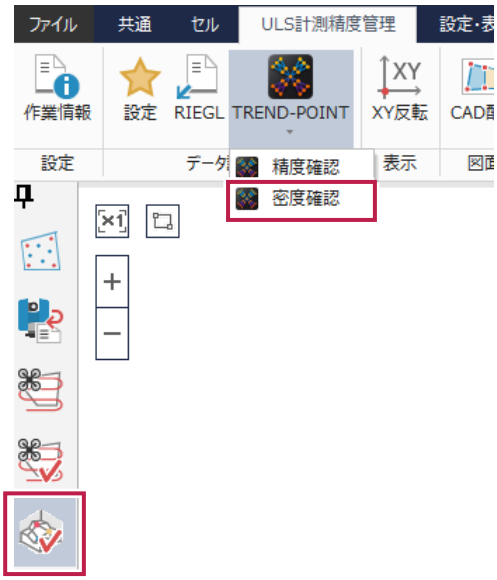


6-2 点密度検証精度管理表に対応

[ULS計測精度管理]ステージにおいて、TREND-POINTから出力した点群の密度確認結果(csv)を取り込み、「点密度検証精度管理表」を作成できるようになりました。

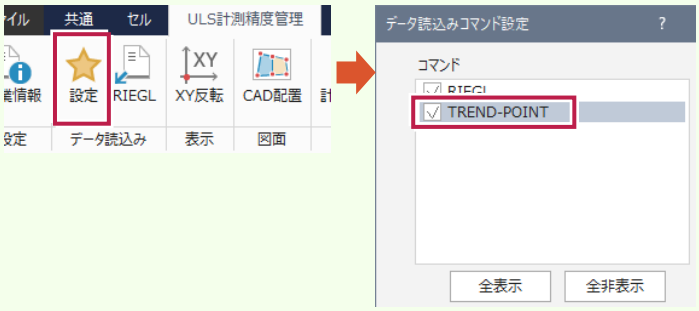


・csvファイルの読み込みは[TREND-POINT]－[密度確認]からおこなうことができます。



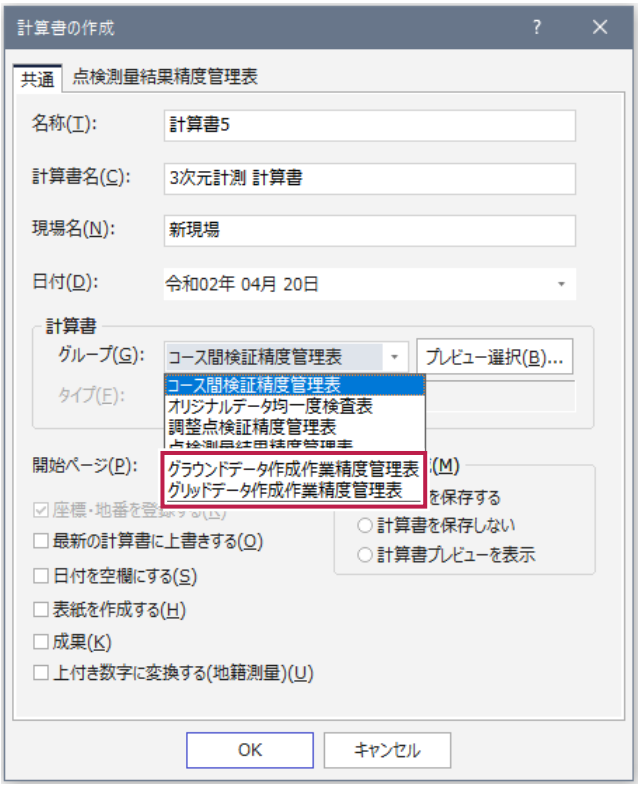
メモ

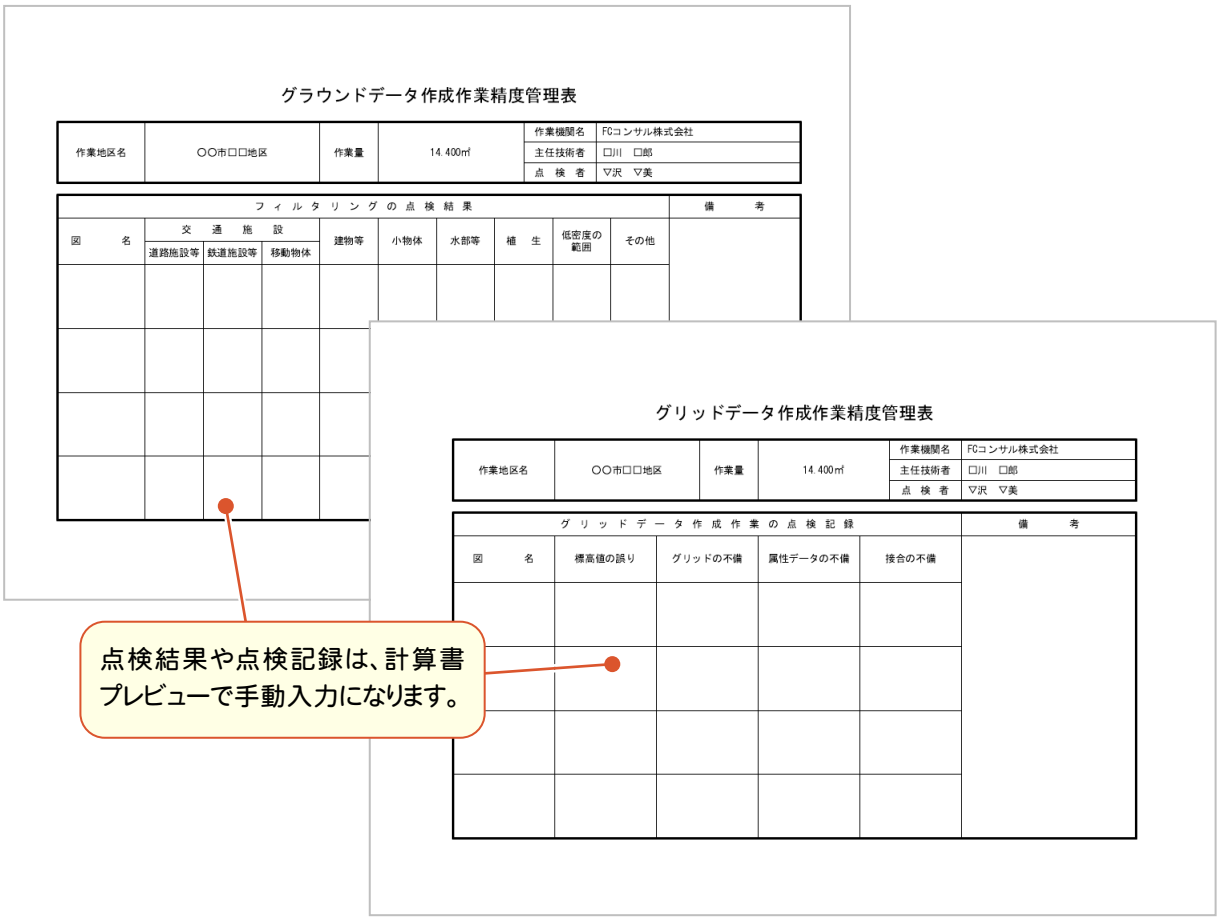
コマンドを表示するには、[ULS 計測精度管理]タブ－[データ読込み]グループ－[設定]で[TREND-POINT]のチェックをオンにしてください。



6 - 3 グラウンドデータ/グリッドデータ作成作業精度管理表を追加

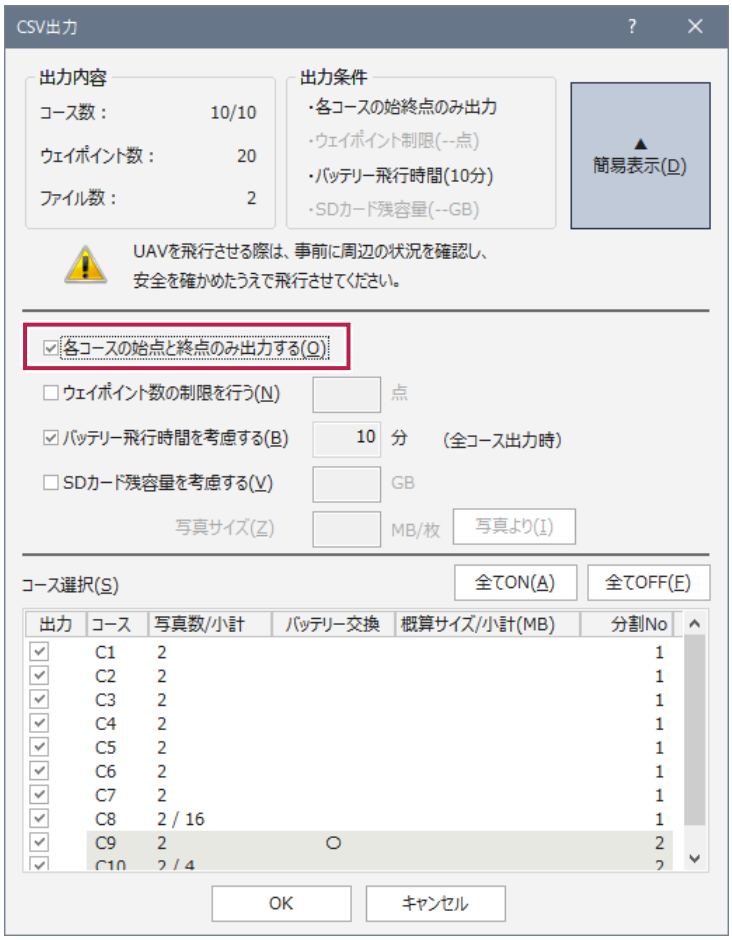
［ULS計測精度管理］ステージの計算書作成で、「グラウンドデータ作成作業精度管理表」、「グリッドデータ作成作業精度管理表」の帳票テンプレートを追加しました。





6-4 飛行ルートの出力機能を改良

飛行ルートCSV出力時、各コースの始点と終点のみ出力する機能を追加しました。



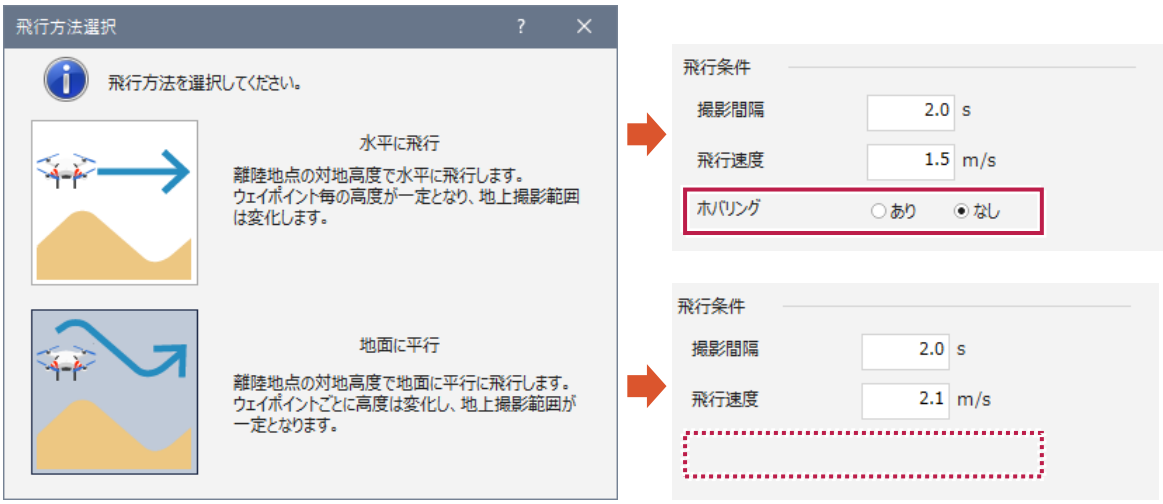
＜該当コマンド＞

・UAVモード：[撮影シミュレーション]タブ－[計画読込み]グループ－[GsPro]－[飛行ルート(CSV)]
[撮影シミュレーション]タブ－[計画読込み]グループ－[Litchi]

・ULSモード：[飛行ルートシミュレーション]タブ－[計画読込み]グループ－[GsPro]－[飛行ルート(CSV)]
[飛行ルートシミュレーション]タブ－[計画読込み]グループ－[Litchi]

6 - 5 「ホバリング」設定の表示制御を改良

飛行方法が[地面に平行]に設定されている場合、飛行条件[ホバリング]は「あり」固定となるため、設定を非表示とするようにしました。



6 - 6 コマンド名の変更

[ULS計測記録管理]ステージにおいて、データ読込み[RIEGL]の名称を[POSPac]に変更しました。

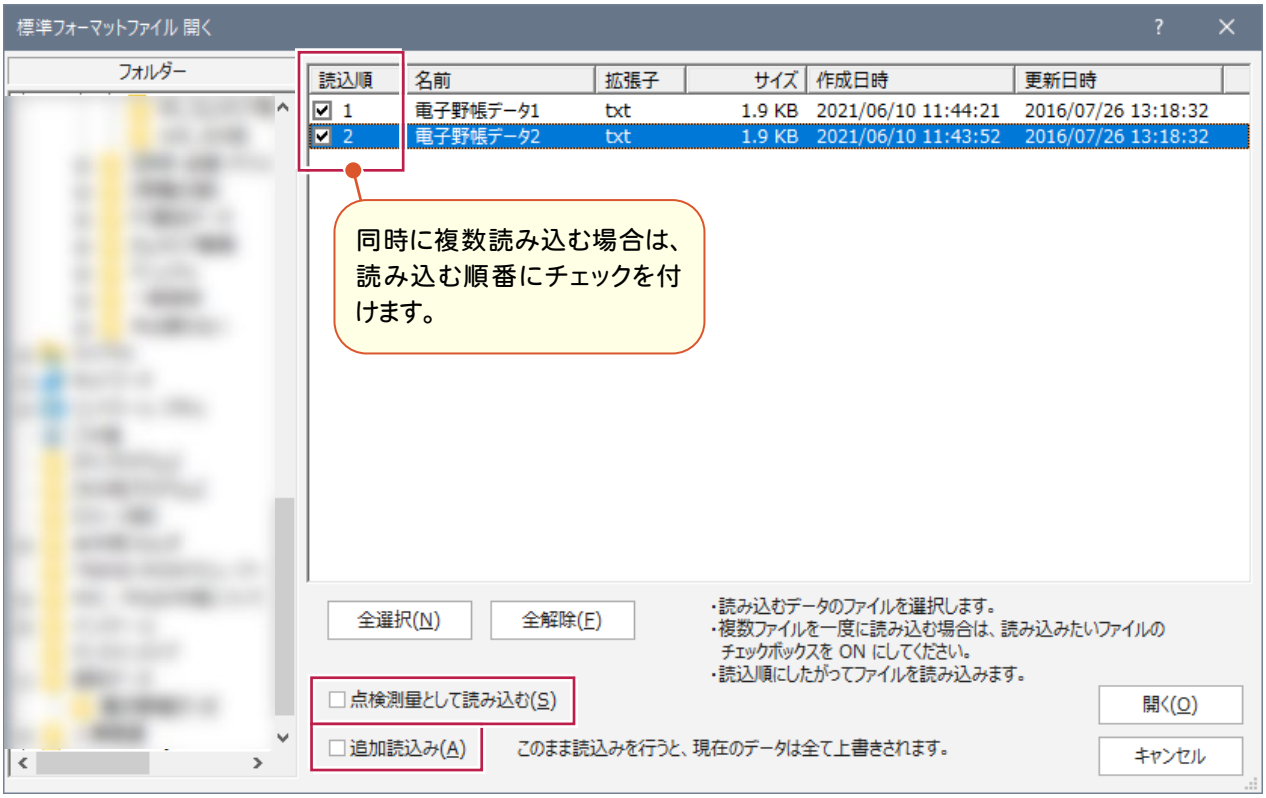
7 電子野帳取込

電子野帳取込の新機能をご紹介します。

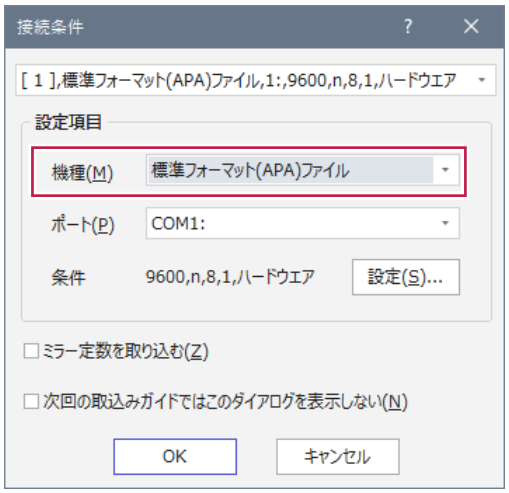
7 - 1 生データ取込みを改良

あらかじめ点検観測と分かっている生データを取り込んだ場合に、器械点情報の採用状態「点検」を自動セットできるようになりました。

また、複数の生データファイルの同時読込み、追加読込みが可能になりました。

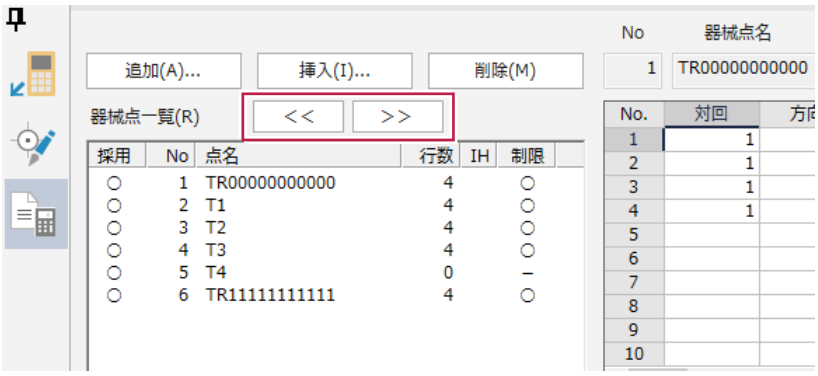


※上記の設定は、接続条件の[機種]で「標準フォーマット(APA)電子野帳」、「標準フォーマット(APA)ファイル」を選択している場合に可能です。



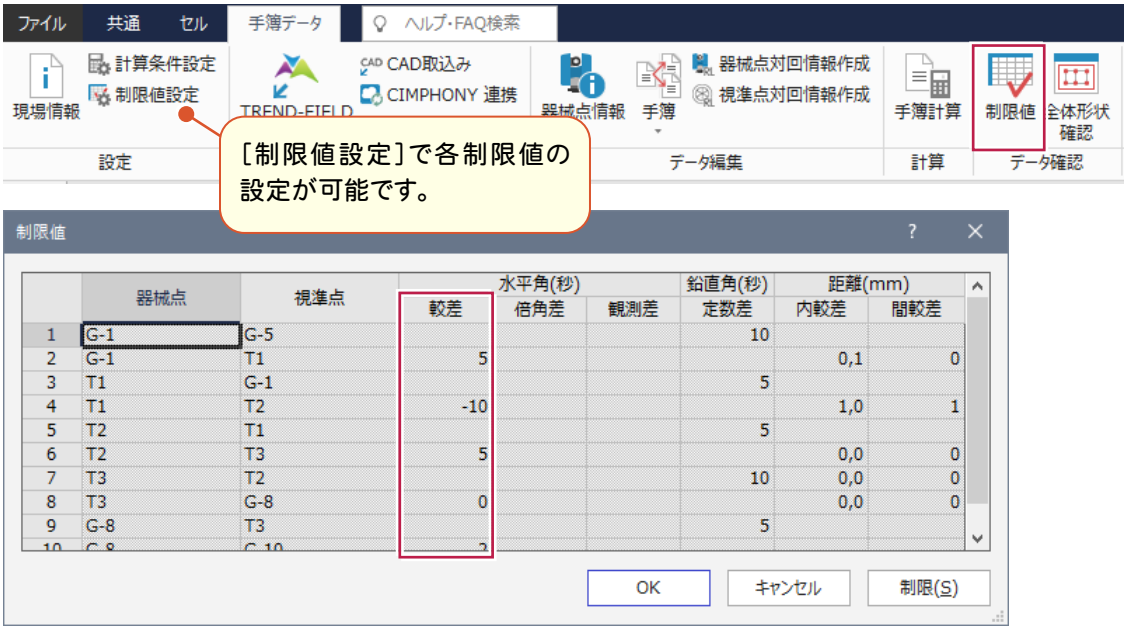
7 - 2 器械点一覧リストの表示幅を変更可能に

器械点名が長い場合に、見切れないようにリストの表示幅を変更できるようにしました。



7 - 3 水平角の較差チェックに対応

［手簿］ステージの［制限値］において、水平角の較差が確認できるようになりました。（手簿計算後に確認できます。）

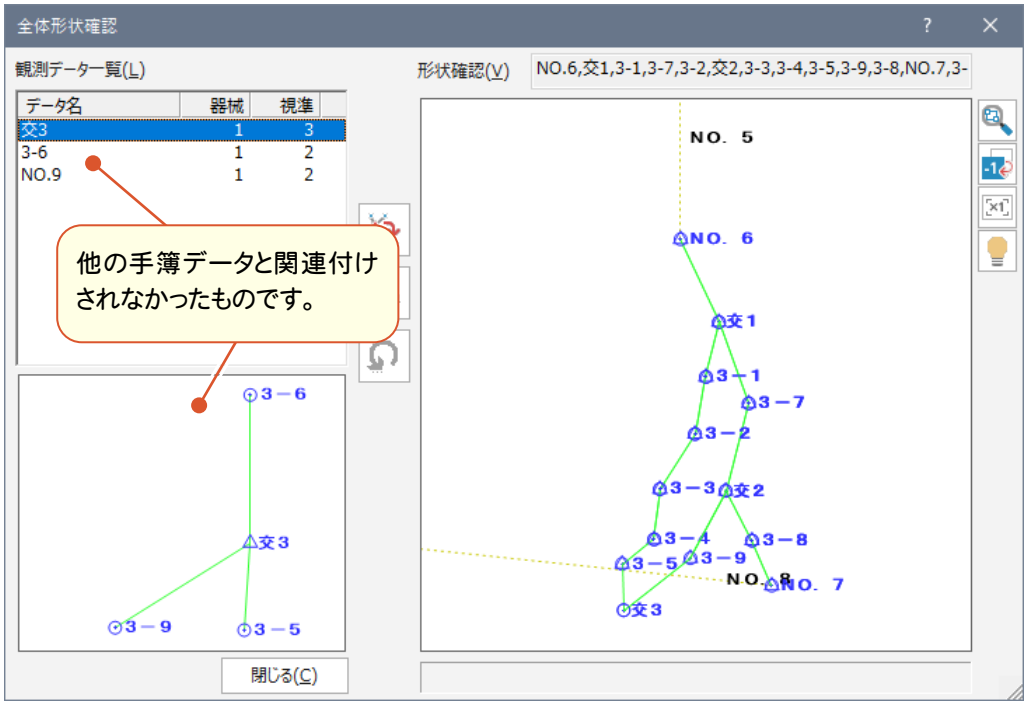


7-4 全体形状確認を改良

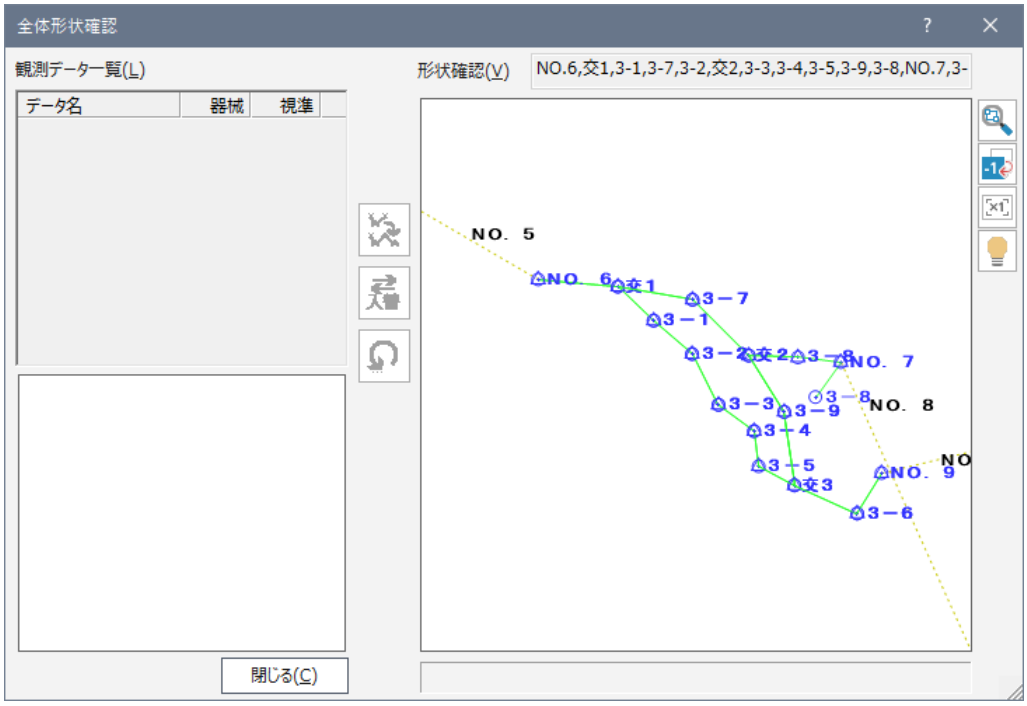
［手簿］ステージの［全体形状確認］において、器械点、後視点と同じ点名の座標が座標管理に存在している場合に、手簿データと関連付けて表示するようにし、全体形状が再現されやすくなりました。

以下、同じデータで従来とVer.5の見え方の違いを比較した例です。
従来では、手簿データの測点名で関連付かないとまとめて表示されませんでしたが、Ver.5では座標管理の各点座標の位置に表示され、全体形状が再現されています。

【従来の表示】



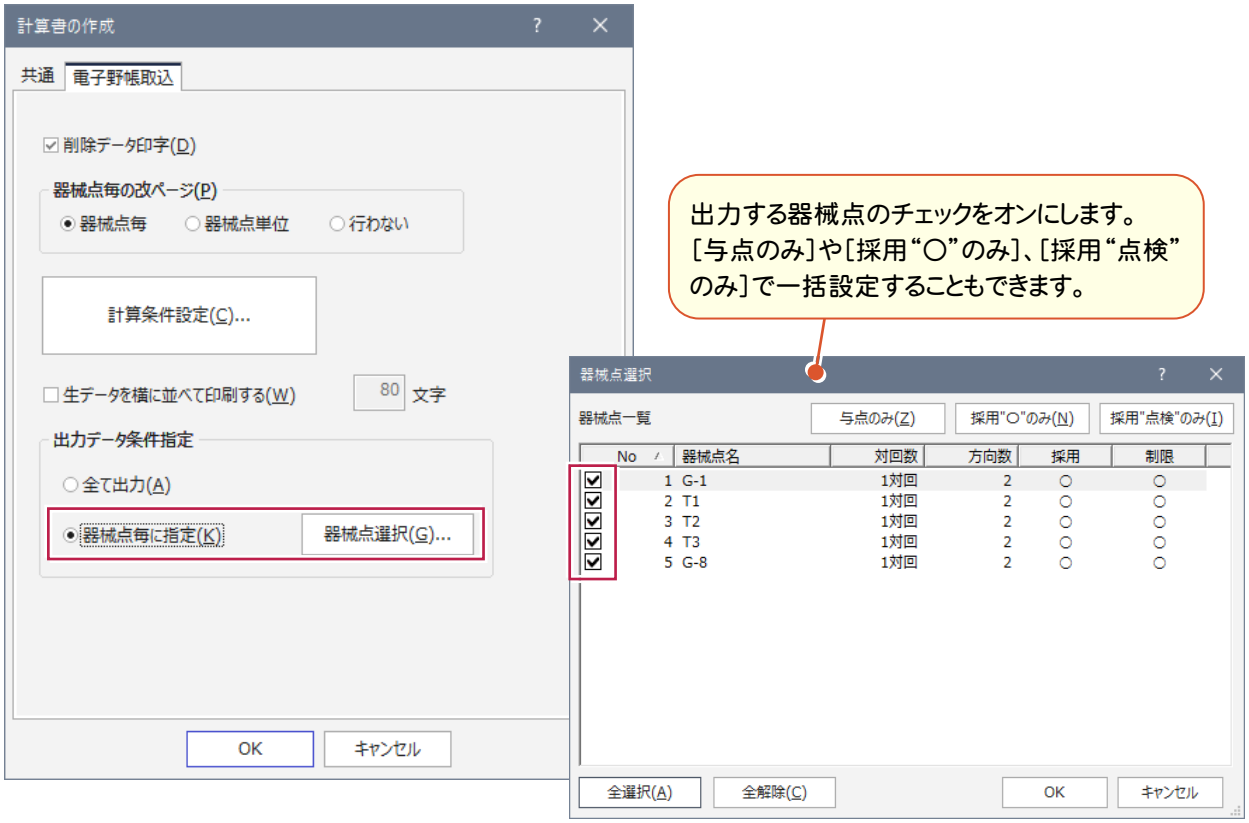
【Ver.5の表示】



7 - 5 出力する器械点の絞り込みが可能に

計算書作成時に、器械点ごとに出力の有無を設定できるようになりました。

絞り込んだ状態で作成できるため、作成後の計算書データで不要なページを削除する等の手間を減らせます。



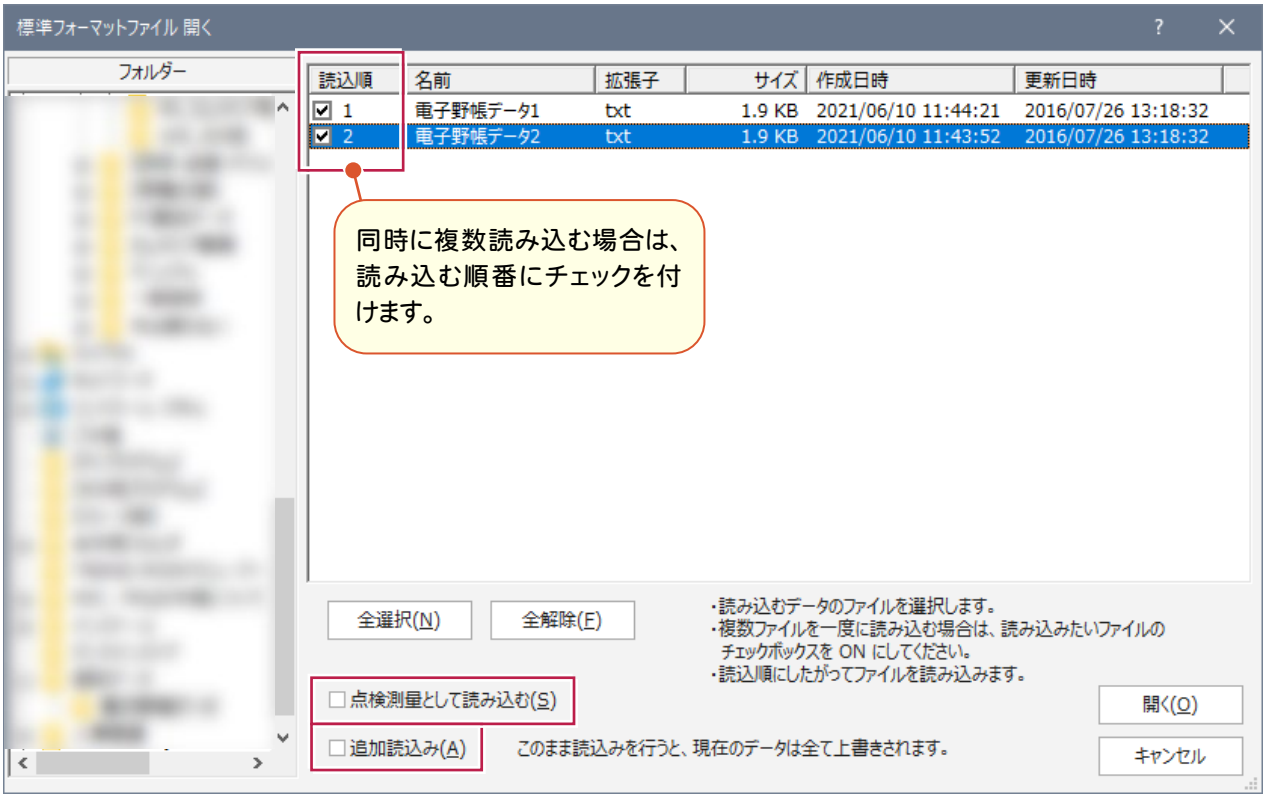
8 基準点測量

基準点測量の新機能をご紹介します。

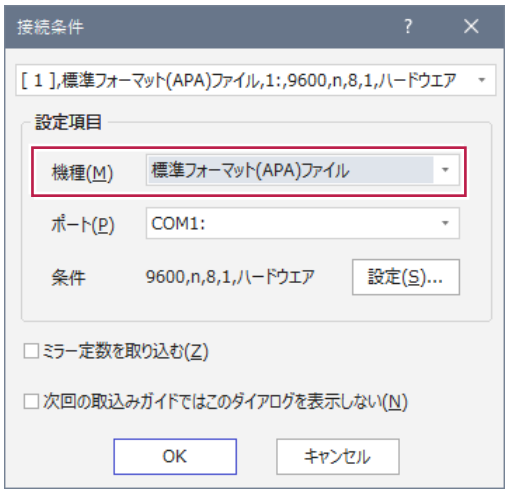
8 - 1 生データ取込みを改良

あらかじめ点検観測と分かっている生データを取り込んだ場合に、器械点情報の採用状態「点検」を自動セットできるようになりました。

また、複数の生データファイルの同時読込み、追加読込みが可能になりました。

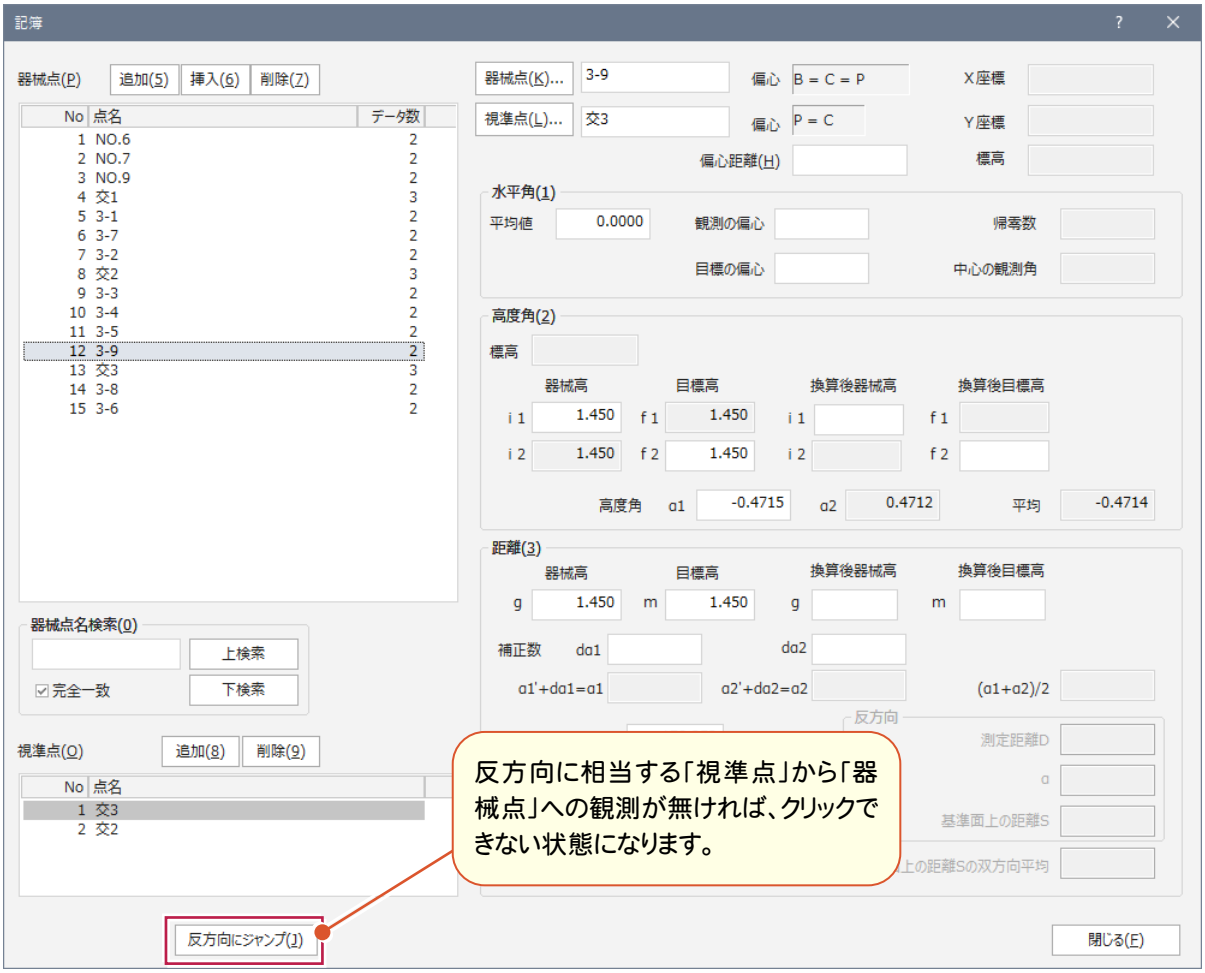


※上記の設定は、接続条件の［機種］で「標準フォーマット（APA）電子野帳」、「標準フォーマット（APA）ファイル」を選択している場合に可能です。



8-2 記簿データ確認で[反方向にジャンプ]機能を追加

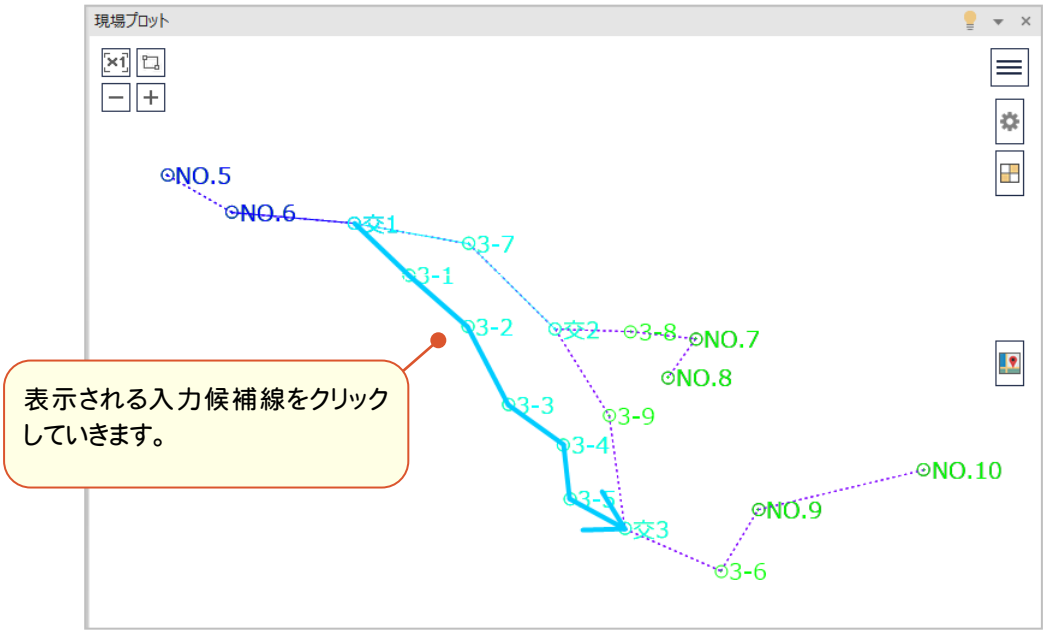
記簿ダイアログにおいて、選択中の「器械点」「視準点」に対し、「視準点」から「器械点」を観測する記簿が存在すれば、[反方向にジャンプ]で選択中の記簿を切り替えることが可能になりました。



8 - 3 点検路線の入力手順を軽減

［路線指定入力］機能を追加し、点検路線入力の作業を軽減しました。

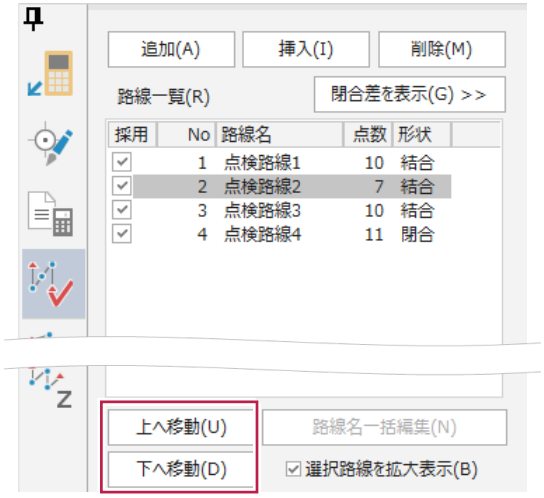
現場プロットにおいて、「既知点～交点」、「交点～交点」、「交点～既知点」を自動認識し、クリックしてくことで路線を組むことができます。



8-4 点検路線の編集機能を強化

点検路線において、以下の編集操作が可能になりました。

・路線の順番変更ができるようになりました。



・路線名の一括訂正ができるようになりました。

路線の順番を変更したことによる通し番号の付け直しにも利用できます。

・複数路線に対して閉合差制限を一括訂正できるようになりました。

※点検路線を複数選択した場合は一括訂正が可能なため、従来の閉合差制限ダイアログにあった［全路線に適用］のチェックボックスは廃止になりました。

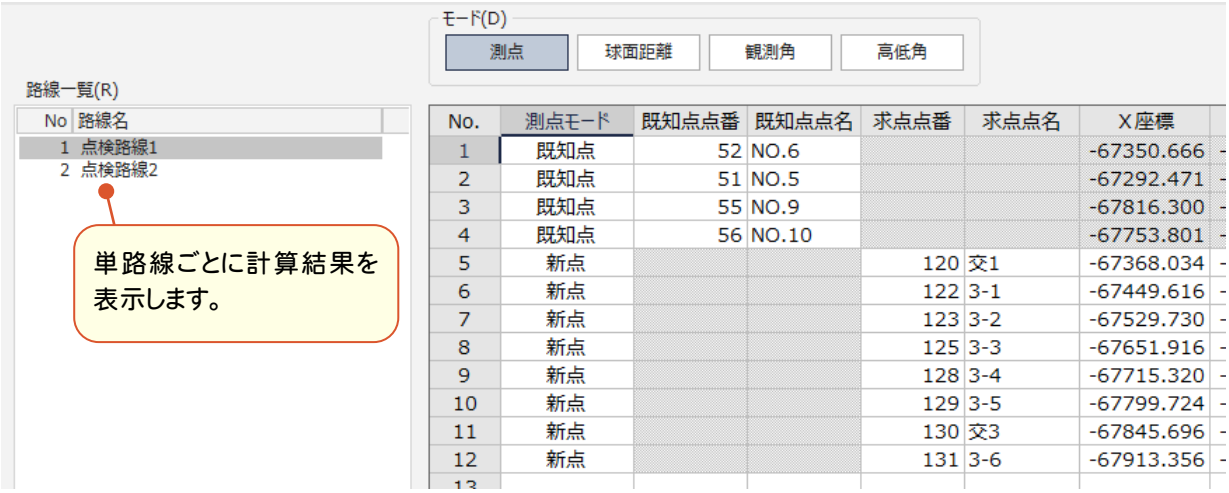
8-5 閉合差表示を拡張

各路線の閉合差を一覧表示して確認できるようになりました。

8-6 複数単路線の厳密網計算処理を改善

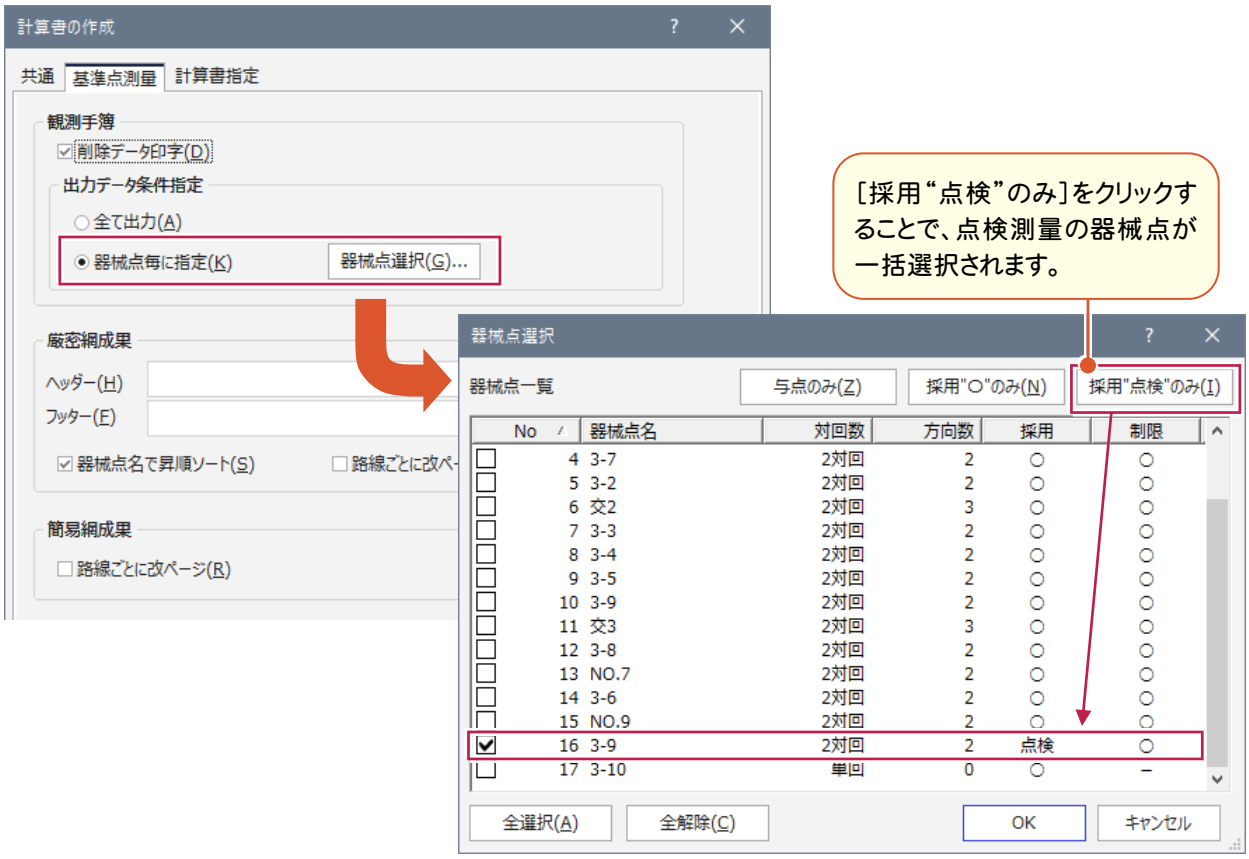
既知点間の点検路線データから、複数の単路線厳密網データを作成し、厳密網計算できるようになりました。

・[厳密網]ステージに追加された[厳密網]タブ－[データ作成]の[単路線データ作成]を実行します。



8-7 点検測量のみの手簿計算書を作成可能に

計算書作成時に出力器械点を選択できるように対応し、点検測量のみの手簿計算書作成が可能になりました。



［採用“点検”のみ］をクリックすることで、点検測量の器械点が一括選択されます。

8-8 計算書に取消線を表示

厳密網成果において、埋設様式、種別の取消線自動作成に対応しました。

対応フォームは以下です。

・成果表　その3（H23年度記載要領）

・成果表　その3（H28年度作業規程）

（表記イメージ）

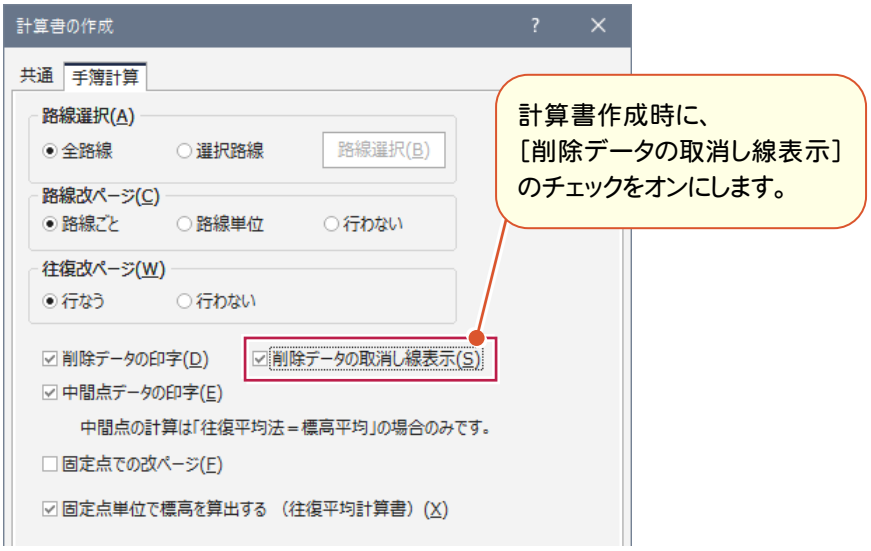
埋標形式	~~地上~~	地下	~~屋上~~	標識番号	標石 ~~金属標~~	

9 水準測量

水準測量の新機能をご紹介します。

9 - 1 計算書に取消線を表示

再測による取消観測の斜線を自動作成して、計算書の手入力編集の手間を軽減しました。



（表記イメージ）

点 名	距 離	後 視	前 視	高低差
1	10.00	0.363	1.978	-1.615
2	51.00	0.307	1.235	-0.928
3	21.00	0.285	2.792	-2.507
4	7.00	0.357	2.331	-1.974
5	48.00	0.519	1.205	-0.686
	~~33.00~~		~~1.434~~	
	~~28.00~~		~~2.455~~	
6	33.00	1.297	1.434	-0.137

10 トラバース計算

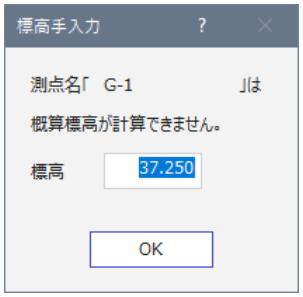
トラバース計算の新機能をご紹介します。

10-1 器械点標高が自動計算できない場合の操作を改善

［記簿計算］において、器械点標高の自動計算ができない場合の動作を以下のように変更しました。

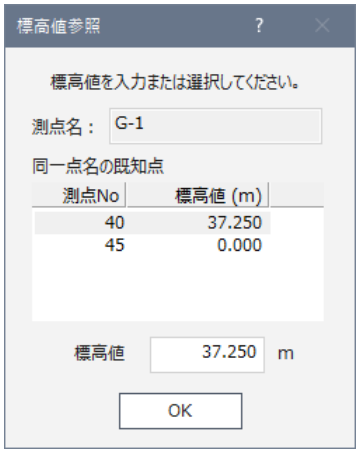
・該当既知点の候補が1点しかない場合

自動で標高が設定されるようになりました。従来は以下の標高手入力ダイアログが表示されていましたが、Ver.5では表示されなくなるので手間が軽減します。



・該当既知点が複数存在する場合

座標管理に同一点名が複数存在するときは標高値参照ダイアログを表示し、候補から選択できるようになりました。

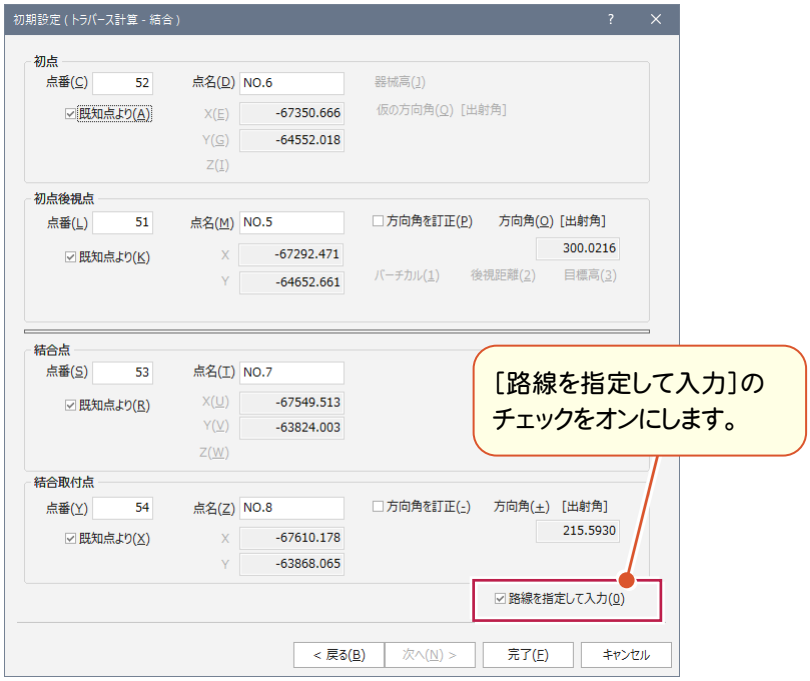


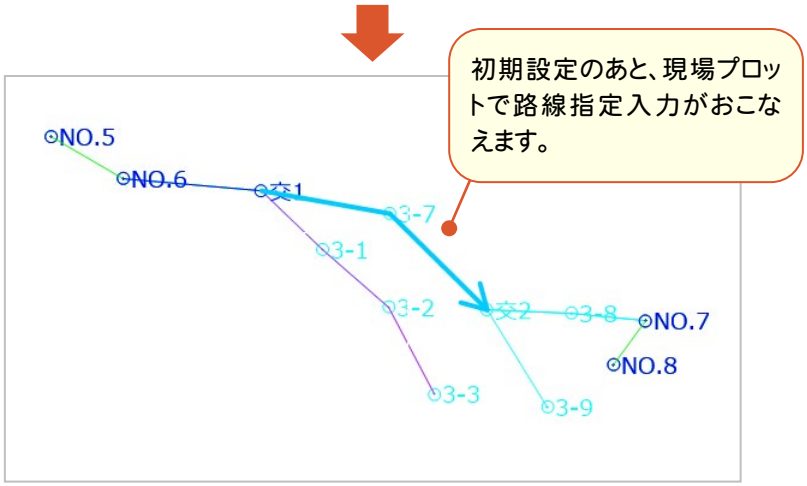
メモ

［野帳データ］タブの［データ編集］グループ－［器械点標高］でも、該当既知点が複数存在する場合は標高値参照ダイアログを表示し、候補から選択できるようになりました。

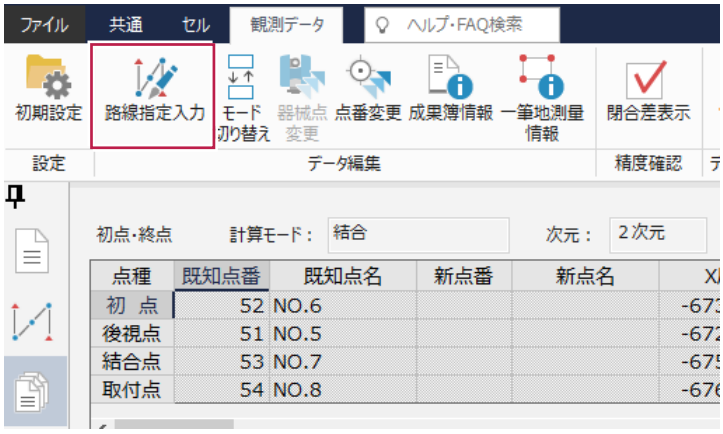
10-2 野帳の観測線を選択して観測データへ変換可能に

野帳から観測データへの変換において、観測の順番に関わらず、初点位置・路線進行方向の指定を可能にしました。





初期設定ダイアログ以外では、[観測データ]タブの[データ編集]グループ－[路線指定入力]からおこなうことができます。

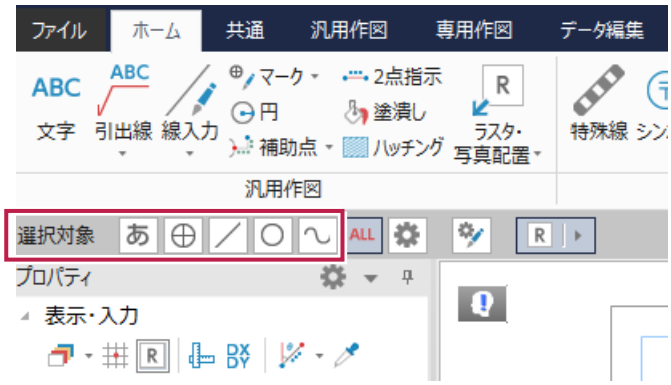


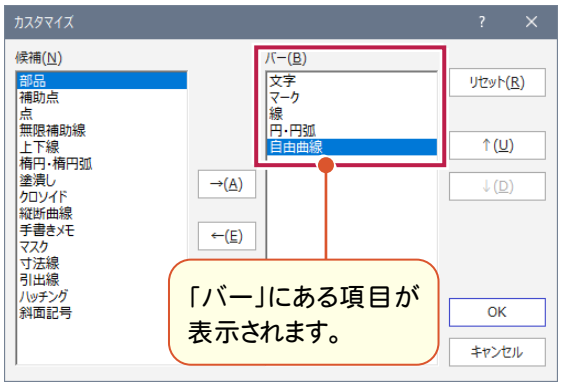
11 CAD

CADの新機能をご紹介します。

11-1 「選択対象」のボタン表示をカスタマイズ可能に

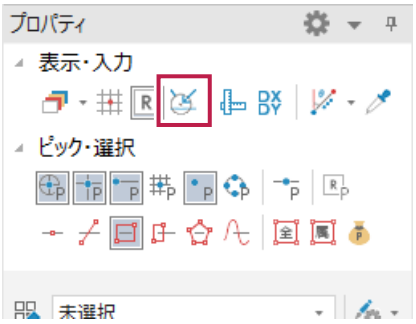
「文字」や「線」など、「選択対象」を切り替えるボタンの表示を自由に変更できるようになりました。
[カスタマイズ] から変更が可能です。



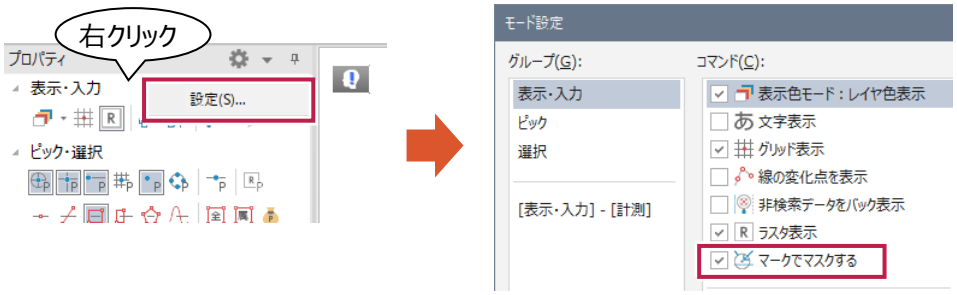


11-2 「マークでマスクする/しない」の切り替えボタンを追加

プロパティに[マークでマスクする]のアイコンを表示できるようになりました。
[共通設定]を開かなくてもプロパティからワンタッチで「マークでマスクする/しない」を変更できます。

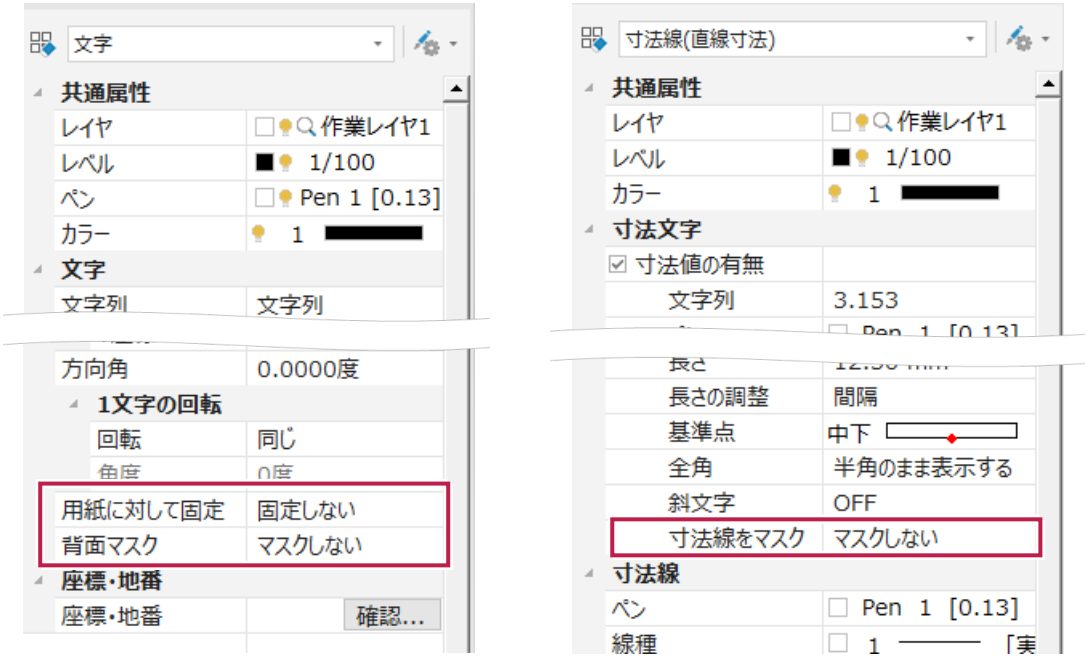


プロパティに[マークでマスクする]のアイコンを表示するには、右クリック[設定]から[表示・入力]の[マークでマスクする]のチェックをオンにしてください。



11-3 プロパティの「はい」/「いいえ」など設定の表現を改良

プロパティでの各項目の表記を分かりやすく改良しました。
例えば、文字の[用紙に対して固定]:「はい」/「いいえ」を「固定する」/「固定しない」に、[背面マスク]:「はい」/「いいえ」を「マスクする」/「しない」に、寸法線要素の「マスク」を「寸法線をマスク」に変更しました。



＜変更後の表記＞

要素	項目	従来	変更後
文字	縦書き	はい/いいえ	ON/OFF
	全角	はい/いいえ	半角を全角表示する/半角のまま表示する
	斜文字	はい/いいえ	ON/OFF
	用紙に対して固定	はい/いいえ	固定する/固定しない
	背面マスク	はい/いいえ	マスクする/マスクしない
	折返し (※「図枠カスタマイズツール」の項目)	はい/いいえ	折返す/折返さない
引出線(※複数選択時)	全角	はい/いいえ	半角を全角表示する/半角のまま表示する
	マスク	はい/いいえ	マスクする/マスクしない
線	閉合	はい/いいえ	閉合する/閉合しない
寸法線	全角	はい/いいえ	半角を全角表示する/半角のまま表示する
	斜文字	はい/いいえ	ON/OFF
	寸法線をマスク (従来の項目名は[マスク])	はい/いいえ	マスクする/マスクしない
	両側を統一する	はい/いいえ	統一する/統一しない
	始点側表示	はい/いいえ	表示する/表示しない
	終点側表示	はい/いいえ	表示する/表示しない
寸法線(※複数選択時)	全角	はい/いいえ	半角を全角表示する/半角のまま表示する
	寸法線をマスク (従来の項目名は[マスク])	はい/いいえ	マスクする/マスクしない
マーク	背面マスク	はい/いいえ	マスクする/マスクしない
ラスタ	縦横比固定	はい/いいえ	固定/可変
すべて(※文字を含んだ複数要素)	全角	はい/いいえ	半角を全角表示する/半角のまま表示する
塗潰し(※複数選択時)	グラデーション	はい/いいえ	ON/OFF

11-4 複写した要素に対しての配置フラグを変更

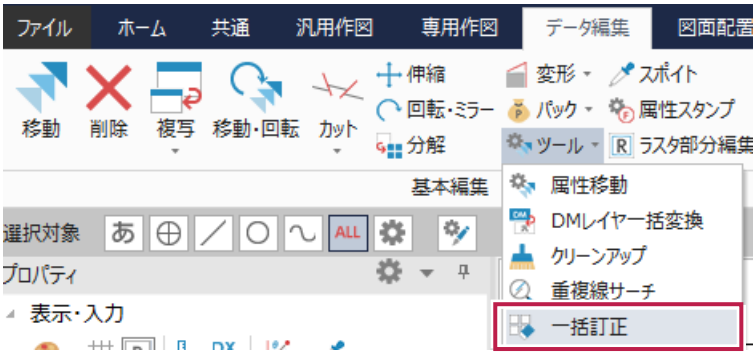
[共通設定]－[選択モード]の[図面配置された要素を非選択]をオンにしている場合でも、
複写した「図面配置された要素」については選択できるように(非選択の対象としないように)変更しました。

「図面配置された要素」を以下のコマンドで複写した場合に、[図面配置された要素を非選択]の設定に関わらず要素が選択できます。

・[データ編集]－[複写]
・[表示]－[既図面]

11-5 リボンメニューに[一括訂正]を追加

プロパティバーでの一括訂正に加え、リボンメニューの[データ編集]－[ツール]－[一括訂正]からも実行可能となりました。



11-6 「間隔」設定の保持に対応

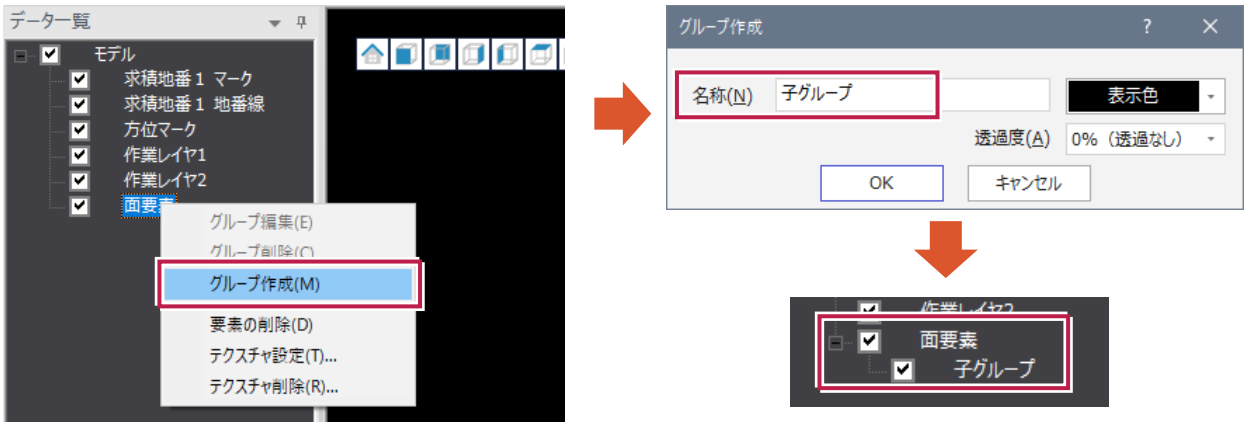
[汎用作図]－[平行線]において、コマンドを起動している間は、入力した「間隔」の数値が保持されるようにしました。
従来は、対象の基準線を指定し直すと「間隔」がクリアされていましたが、Ver.5では複数の線に対して同じ間隔で作図する場合の手間を軽減できます。

11-7 複雑な形状でのグラデーション描画に対応

複雑な形状や構成点が多い場合の塗りつぶしでも、グラデーションが正しく描画されるようにし、さらに描画速度も向上しました。

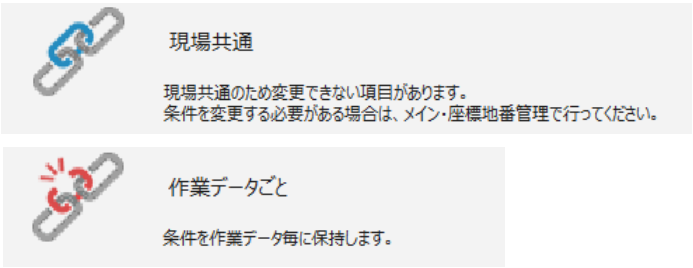
11-8 「面要素」グループの新規作成に対応

[専用作図]－[3Dモデル作成]において、データ一覧「面要素」の子階層にグループを作成できるようにしました。
任意で追加したグループに、手動で面を追加することが可能になります。



11-9 「現場共通」/「作業データごと」の説明を追加

図面配置の各数値条件・スタイルや[設定]－[値設定]のダイアログに、「現場共通」と「作業データごと」それぞれの説明文を表記しました。



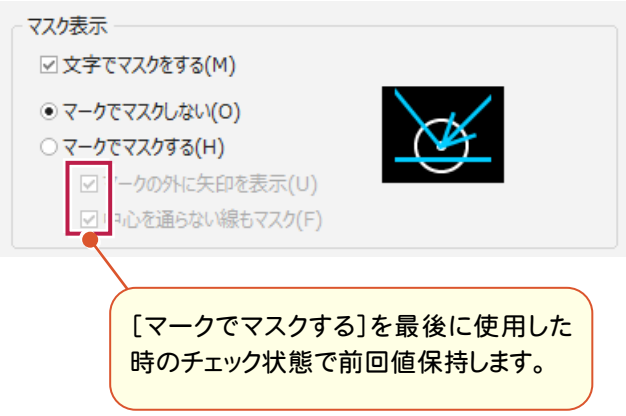
11-10 スタイルや数値条件の印刷を改良

図面配置の各数値条件・スタイルが正しく印刷されるよう対応しました。

例）測量図スタイル

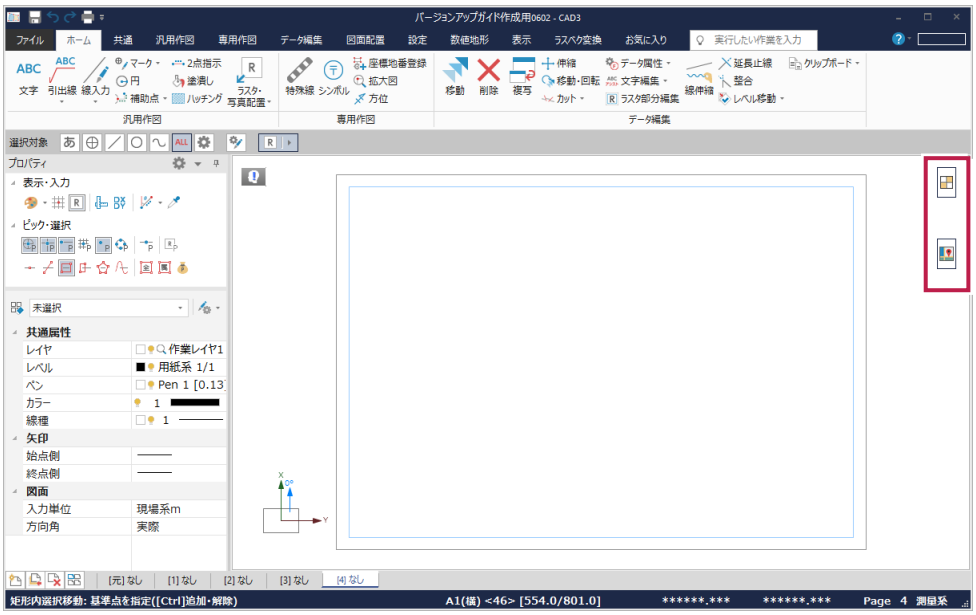
11-11 表示：全般－マスク表示設定の保持を改良

［共通設定］－［表示：全般］－［マスク表示］において、［マークでマスクしない］を選択して確定した場合に、［マークでマスクする］内の設定が保持されるよう改良しました。



11-12 地理院タイル、ストリートビューのアイコン表示設定を追加

CADビュー内右上に表示される「地理院タイル」、「ストリートビュー」のアイコン表示/非表示を切り替えることができるようになりました。



表示/非表示の切り替えは、[共通設定]－[表示：全般]－[ショートカット表示]の[地理院タイル]、[ストリートビュー]でおこなってください。

11-13 表示：ラスターラスタ透過の設定に説明を追加

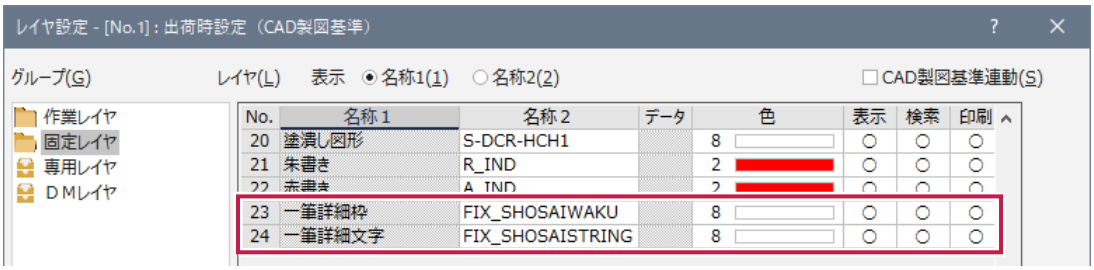
［共通設定］ダイアログの［表示：ラスタ］－［ラスタ透過］に、「※モノクロラスタは、背景が必ず透過されます。」と表記しました。

透過設定はカラーラスタのみに適用され、モノクロラスタは透過設定に関わらず必ず背景が透過されるため、その旨を分かりやすくしました。

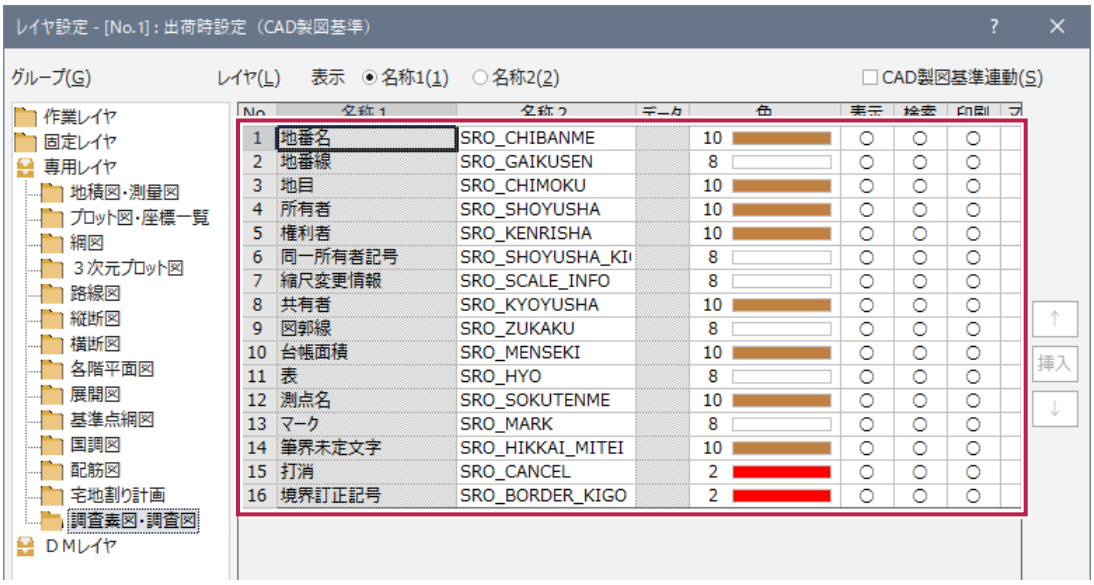
11-14 出荷時設定ファイルにレイヤを追加

［レイヤ設定］の出荷時設定において、以下のレイヤを追加しました。

・［固定レイヤ］・・・「23：一筆詳細枠」、「24：一筆詳細文字」



・［専用レイヤ］－［調査素図・調査図］・・・「1：地番名」～「16：境界訂正記号」

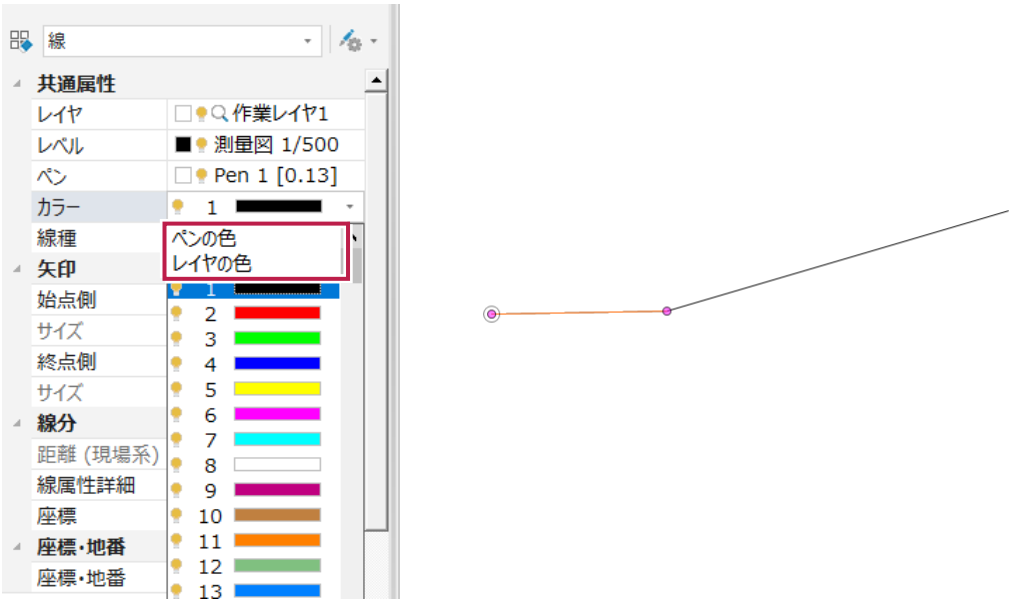


11-15 「累計」押下後もとのダイアログへ戻れるよう改良

［計測］－［面積］において、誤って［累計］を押してしまっても、［後退］でもとのダイアログへ戻ることができるよう改良しました。

11-16 単一選択時、カラー：「ペンの色」「レイヤの色」が選択可能に

要素を単一選択した場合でも、カラーの「ペンの色」、「レイヤの色」が選択できるようになりました。



11-17 割付方法にセンタリングを追加

［線詳細設定］において、割付方法に「センタリング」を追加しました。

12 地積測定

地積測定の新機能をご紹介します。

12-1 地目別集計表の長狭物集計方法を改良

地目別集計表の「長狭物」集計対象を以下のように変更しました。

＜従来＞

・[地籍地番情報]が「長狭物」に設定されている地番

＜Ver.5＞

・[地籍地番情報]が「長狭物」に設定されている地番（従来と同じ）

・[地籍地番情報]が「普通地番」かつ、[地目（現況）]が「地目設定で長狭物に設定されている地目」である地番

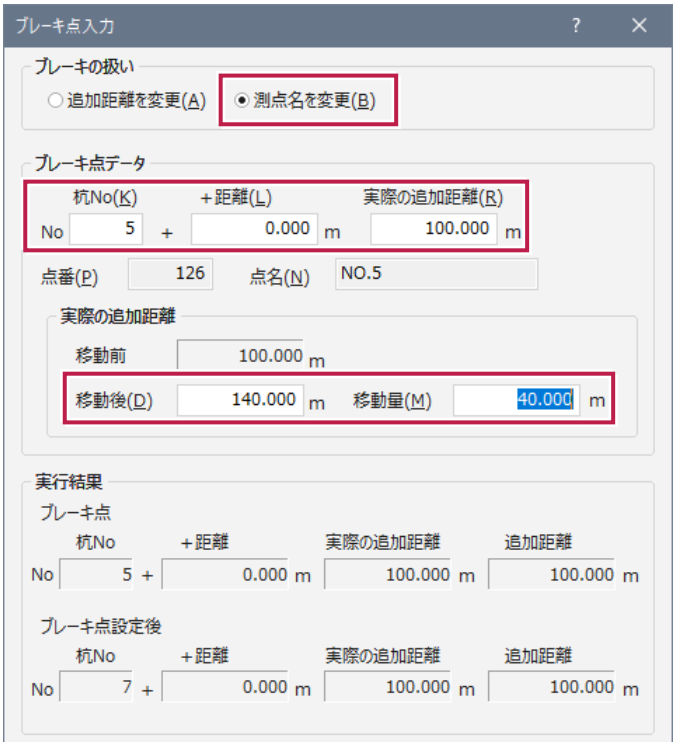
13 路線測量

路線測量の新機能をご紹介します。

13-1 J-LandXML Ver.1.3への対応

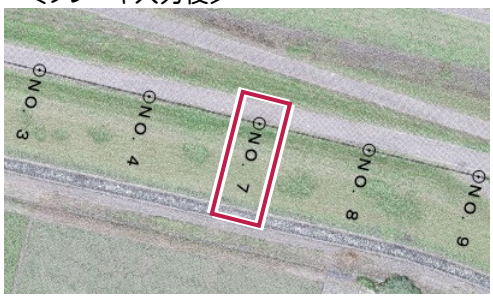
J-LandXML（LandXML 1.2に準じた3次元設計データ交換標準（案））Ver.1.3に対応し、以下の機能を追加しました。

・測点名を変更してブレーキ点を入力できるようにしました。
　例）NO.5にブレーキをかける場合



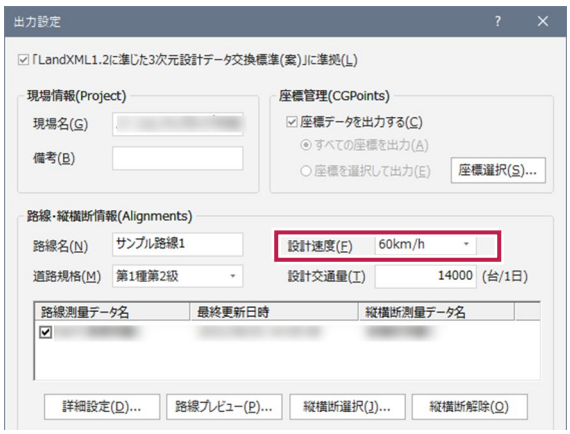
<元の路線>

<ブレーキ入力後>



※「ブレーキの扱い」：［追加距離を変更］を選択すると、従来の方法で入力できます。

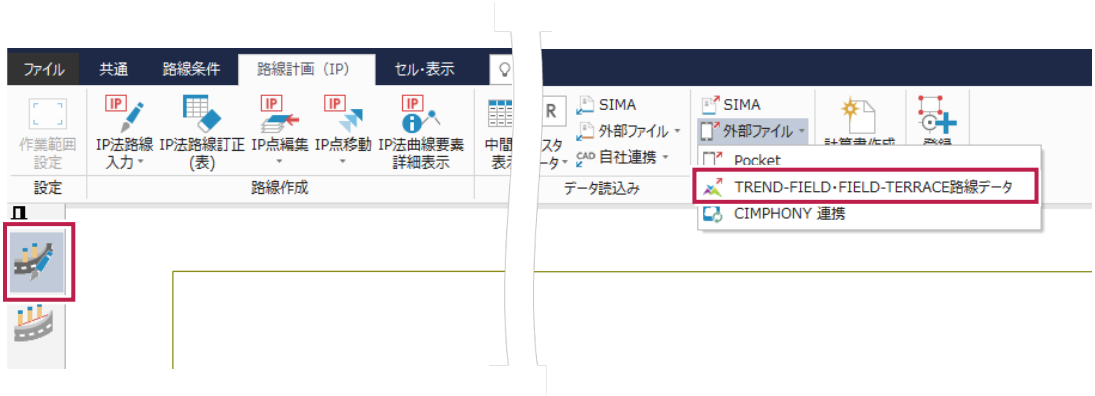
・「圧力単位」の出力内容を修正しました。
・「ブレーキデータの出力に対応しました。
・「設計速度データ」の設定、出力に対応しました。



13-2 FIELD-TERRACE 路線データの書き込みに対応

FIELD-TERRACEで取り込み可能な形式で路線データを出力できるようになりました。

・[路線計画]ステージの[データ書込み]グループ－[外部ファイル]に、[TREND-FIELD・FIELD-TERRACE路線データ]を追加しました。(これに伴い[TREND-FIELD・XYCLONE路線データ]のコマンドは廃止しました。)



14 縦横断測量

縦横断測量の新機能をご紹介します。

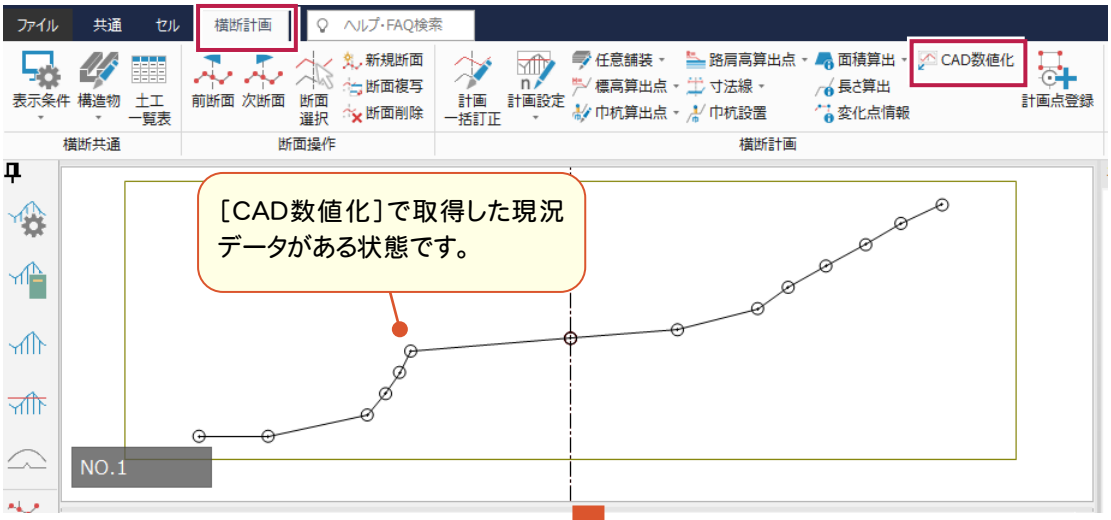
14-1 [前断面]/[次断面]切り替え時の動作を改良

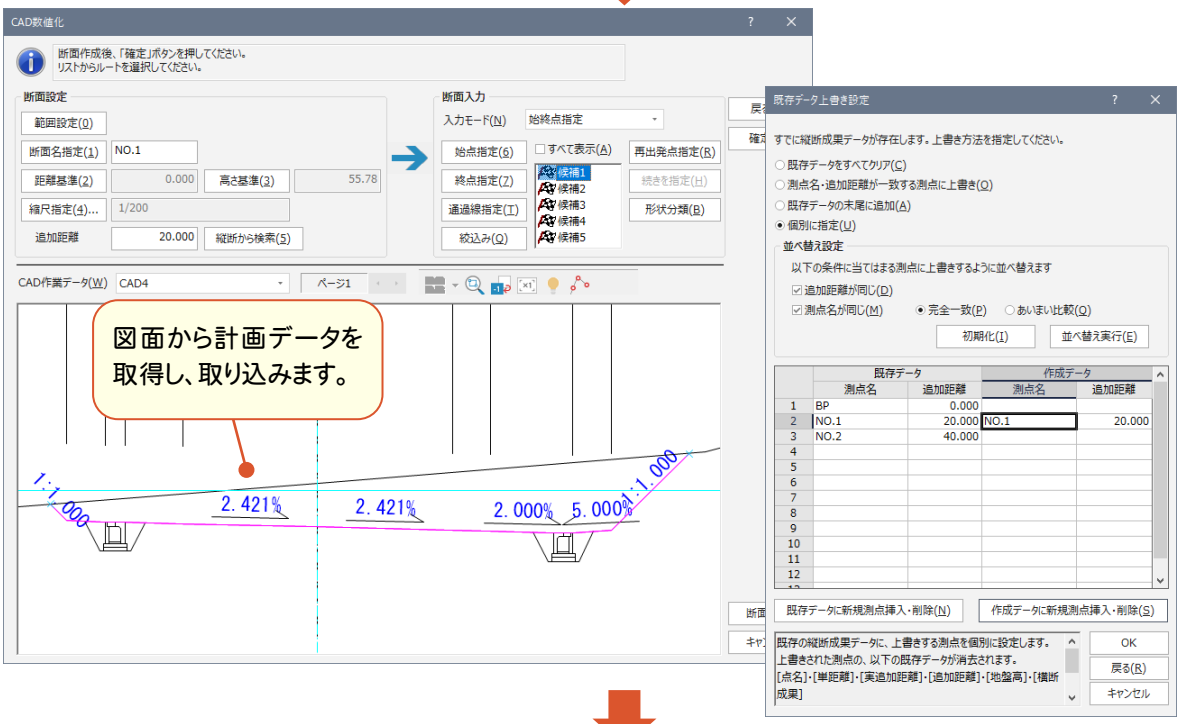
[横断野帳]ステージにおいて[前断面]/[次断面]の切り替え時、[入力切替]の「左」「右」の選択状態を保持するようにしました。(従来は必ず「左」に切り替わっていました。)

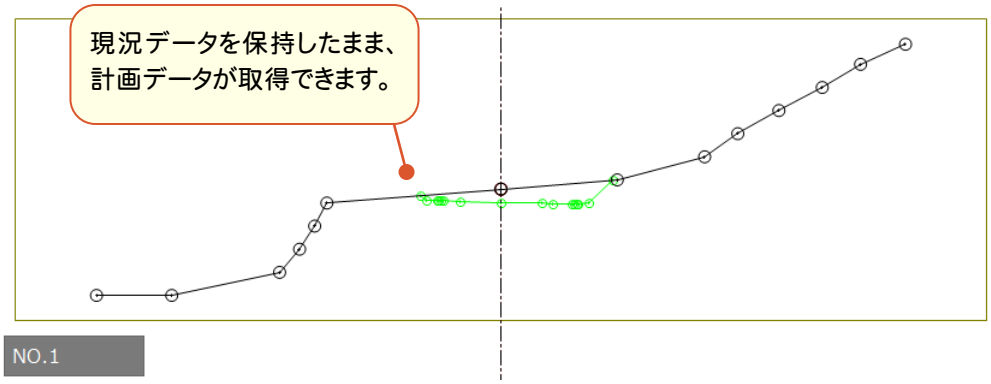
14-2 CAD 数値化で入力済みの現況データ/計画データを保持

現況と計画データの両方を[CAD数値化]を使って入力することが可能になりました。

従来は、1断面に対して[CAD数値化]のデータは1つしか持てませんでした(現況と計画のどちらかしか保持できませんでした)が、Ver.5では[CAD数値化]で入力済みの現況データを保持したまま、計画データを取得することができるようになりました。(計画データを保持したまま、現況データを取得することもできます。)





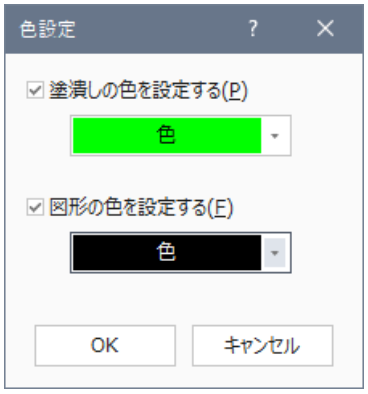


15 プロットマーク登録

プロットマーク登録の新機能をご紹介します。

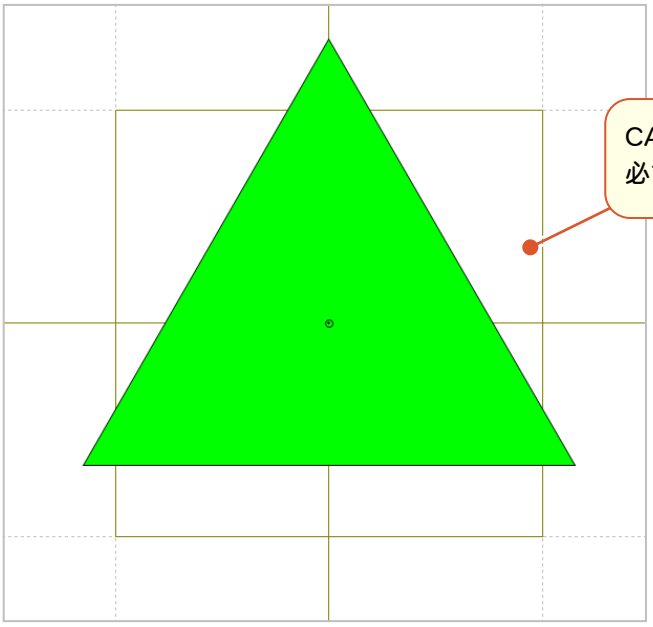
15-1 カラーのプロットマーク登録が可能に

色を指定したプロットマークが作成・登録できるようになりました。
[プロットマーク登録]プログラムの[作図・編集]タブ－[設定]グループ－[色]で、「塗潰しの色」「図形の色」を設定可能です。



メモ

「塗潰しの色」は、[外枠]－[配置]で塗潰しのあるタイプを選択しておくことで反映されます。



CADで表示色モードやレイヤを変更しても、必ず設定した色で描画されます。